令和２年度

大学院生による授業評価結果報告書

鳴門教育大学　大学院学校教育研究科

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は，未掲載。

コース	№	科目コード	科目名	担当教員	頁
心理臨床	01	M1AA010C	子どものこころへのアプローチ	小倉正義,吉井健治,田中淳一,山崎勝之,内田香奈子,高橋眞琴	1
	02	M1AA020C	臨床心理学統計法	古川洋和	2
	03	M1AA030C	福祉分野に関する理論と支援の展開（障害者(児)心理学特論）	小倉正義,川西智也,田中淳一,高橋眞琴	3
	04	M1AA040C	教育分野に関する理論と支援の展開（教育心理学特論）	今田雄三,吉井健治,小倉正義	4
	05	M1AA050C	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪心理学特論）	黒澤良輔	5
	06	M1AA060C	心の健康教育に関する理論と実践	吉井健治,今田雄三,小倉正義,山崎勝之,内田香奈子	6
	07	M1AA070C	臨床心理学研究Ⅰ	久米禎子	7
	08	M1AA080C	臨床心理学研究Ⅱ	葛西真記子	8
	09	M1AA090C	臨床心理面接研究Ⅰ	吉井健治,葛西真記子	9
	10	M1AA100C	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原良造	10
	11	M1AA120E	臨床心理学研究法特論	葛西真記子,粟飯原良造,今田雄三,吉井健治,小倉正義,久米禎子,川西智也,古川洋和	11
	12	M1AA160C	保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）	今田雄三,古川洋和	12
	13	M1AA170C	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	古川洋和	13
	14	M1AA180C	心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）	吉井健治,小倉正義,粟飯原良造,今田雄三,久米禎子,川西智也	14
	15	M1AA190C	心理支援に関する理論と実践	久米禎子,葛西真記子,古川洋和	15
	16	M1AA200C	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族心理学特論）	粟飯原良造,川西智也	16
	17	M1BA010C	心の発達・教育創造研究	山崎勝之	17
	18	M1BA020E	心の発達・教育創造演習	山崎勝之	18
	19	M1BA030C	心理教育科学研究	内田香奈子	19
	20	M1BA040E	心理教育科学演習	内田香奈子	20
	21	M1BA050E	心理・教育科学測定・評価演習	山崎勝之,内田香奈子	21
	22	M1BA060E	予防教育開発・実施演習	山崎勝之,内田香奈子	22
	23	M1CA010C	臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)	高橋眞琴	23
	24	M1CA020C	生理心理学	田中淳一	24
現代教育課題総合	25	M1DA010C	社会認識の方法	山本準	25
	26	M1DA030C	現代の子どもと学校教育	谷村千絵	26
	27	M1DA040C	現代教育人間論	谷村千絵,太田直也	27
	28	M1DA050C	コミュニケーションと環境	金野誠志,谷村千絵	28
	29	M1DA060C	環境と文化	田村和之	29
	30	M1DA070C	文化とコミュニケーション	金野誠志,太田直也	30
	31	M1DA090E	人間と文化Ⅱ	太田直也	31
	32	M1DA100E	人間と環境Ⅰ	田村和之	32
	33	M1DA110E	人間と環境Ⅱ	田村和之	33
	34	M1DA120E	人間とコミュニケーションⅠ	谷村千絵,金野誠志	34
	35	M1DA130E	人間とコミュニケーションⅡ	谷村千絵,金野誠志	35

掲載科目一覧

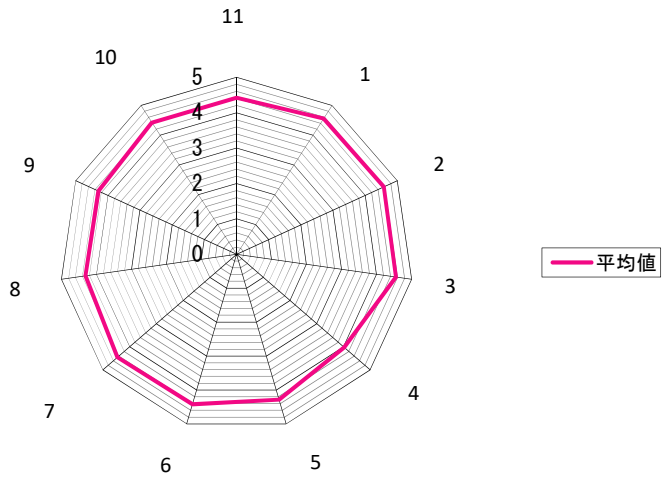
※回答者3名以下の科目は，未掲載。

コース	№	科目コード	科目名	担当教員	頁
グローバル教育	36	M1FA010C	国際教育人間論	石村雅雄,近森憲助,小澤大成,石坂広樹	36
	37	M1FA020E	教育研究・調査	石坂広樹,小澤大成	37
	38	M1FA050C	国際教育協力研究	石坂広樹,石村雅雄	38
	39	M1FA070C	国際教育協力特論Ⅱ	小澤大成,石村雅雄	39
	40	M1FA080C	国際教育授業開発	小澤大成,石坂広樹,近森憲助	40
	41	M1FA090E	国際教育協力演習	石坂広樹,小澤大成	41
	42	M1FA100E	国際教育総合セミナーⅠ	石村雅雄,小澤大成,近森憲助,石坂広樹	42
	43	M1GA010C	国際教育数学内容論	松岡隆	43
	44	M1HA010C	日本語文法研究	田中大輝	44
	45	M1HA020C	日本語音声表現研究	田中大輝	45
	46	M1HA030C	日本語語彙論	田中大輝	46
	47	M1HA040C	社会言語学研究	永田良太	47
	48	M1HA050C	言語習得･発達論	田中大輝	48
	49	M1HA060C	日本語教育学研究	廣田知子	49
	50	M1HA070C	日本語教育法研究（日本語教育観察実習）	廣田知子	50
	51	M1HA080E	日本語教育学演習	廣田知子	51
	52	M1HA090E	日本語教育法演習（日本語教育グループ実習）	廣田知子,田中大輝	52
	53	M1HA110C	日本文化研究	廣田知子	53
	54	M1HA120C	日本語Ⅰ	田中大輝	54
	55	M1HA130C	日本語Ⅱ	廣田知子	55
	56	M1HA140C	日本語Ⅲ	田中大輝	56
	57	M1HA150C	日本語Ⅳ	廣田知子	57
	58	M1HA160C	日本事情・日本文化	廣田知子	58
	59	M1IA010C	異文化コミュニケーション研究	眞野美穂	59
	60	M1IA020C	対照言語学研究	山川太	60
	61	M1IA030E	言語コミュニケーション演習	眞野美穂	61
	62	M1IA040C	英語文化研究	前田一平	62
	63	M1IA060E	ライティング・スキルⅠ	鎌田スザーン・リン	63
	64	M1IA080E	プレゼンテーション・スキルⅠ	ｼﾞｪﾗｰﾄﾞﾏｰｼｪｿ	64

結果報告書

授業科目名　子どものこころへのアプローチ
評価実施日　令和2年8月5日
担当教員名　小倉正義，吉井健治，田中淳一，山崎勝之，内田香奈子，高橋眞琴　　回答者数 38 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	27	8	1	1	1		4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	9	2	1			4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	25	10	2	1			4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18	8	7	5			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	20	12	4	1	1		4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	22	13		3			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	24	10	2	1	1		4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	10	5	2			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	11	3	2	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	11	4	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	25	8	2	2	1		4.4



教員のコメント

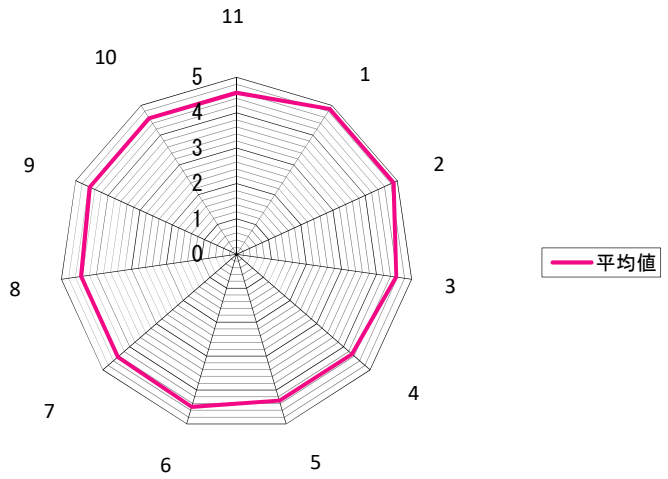
・Moodleやその他のオンライン教材を併用しての実施となりましたが，受講者がしっかりと課題に取り組んでくれたこともあり，授業のねらいは概ね達成することができたのではないかと感じました。ただ，評価でもやや低かったように，アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題として取り組んでいきたいと思います。また，こちら側からも，学びのモチベーションを高めるための工夫をしていきたいと考えています。
・対面での授業が主になっても，Moodle等をうまく活用して学びが深められるようにしたいと思います。
・レポートについての説明がわかりにくかったという意見が多くあり，これまでは対面で説明しているから伝わることも，オンラインでは説明不十分になってしまう点があることを意識して，今後は説明の仕方を工夫します。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学統計法
評価実施日　令和3年2月4日
担当教員名　古川洋和

回答者数 16 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	2					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	3			1		4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11		4	1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	3	1	2			4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	12	1	2	1			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	3		2			4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2	2	1			4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	3			1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13		2	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	3	2				4.6



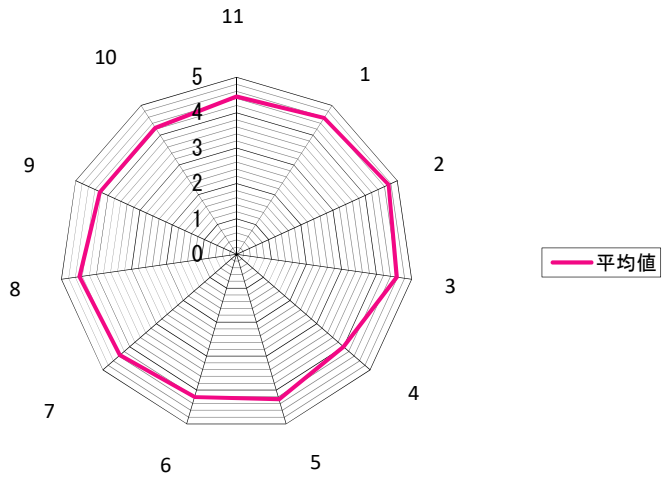
教員のコメント

現在、心理学分野の研究は「統計革命」が起こっており、従来のデータ解析手法のみで研究を実施することの問題点が指摘されている。本講義は、統計革命に対応できることを目的とした内容を組み込んでいるため、学部等で履修する統計学の基礎知識のない状態の受講者と統計学の基礎知識を有する受講者との間にニーズの違いが大きい。双方のニーズを同時に満たすことができないため、授業評価アンケートの評定値の分散が大きいが、本講義の性質上、個々のニーズに対応することは不可能である。回答者の大半は、すべての項目について「4」ないし「5」の評価であることから、次年度も同様の内容・方法にて開講する。

結果報告書

授業科目名　福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)
評価実施日　令和2年8月5日
担当教員名　小倉正義，川西智也，田中淳一，高橋眞琴　　回答者数 33 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	21	10	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	7	1				4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	23	7	2	1			4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13	10	7	3			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	7	5	1	1		4.3
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	15	14	1	2	1		4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	17	13	2		1		4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	19	11	3				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	20	5	5	2	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	16	3	1			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	19	11	2	1			4.5



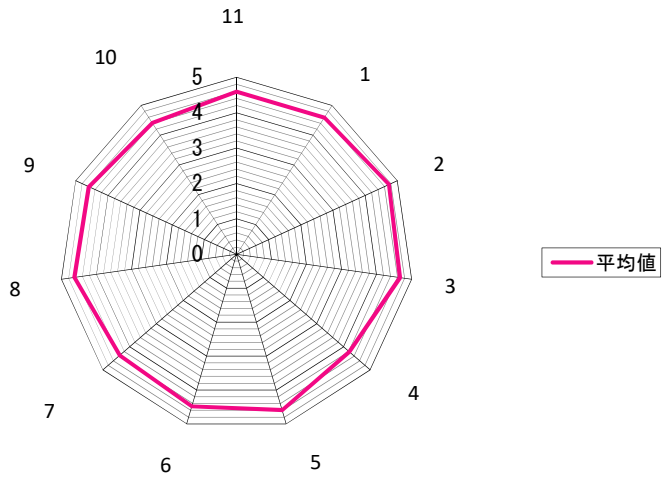
教員のコメント

・Moodleやその他のオンライン教材を併用しての実施となりましたが，受講者がしっかりと課題に取り組んでくれたこともあり，授業のねらいは概ね達成することができたのではないかと感じました。ただ，評価でもやや低かったように，アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題として取り組んでいきたいと思います。
・心理学分野の授業ですが，法律の関連が多く，わかりにくい部分が多いように思っていましたが，その部分の評価が高かった点が成果だと思われます。法律の整理に関しては，さらにわかりやすく，自主学習もしてもらえるような工夫をしたいと考えています。
・上記のような改善を行うためにも，担当者間の連携をさらにとっていけるようにしたいと思います。

結果報告書

授業科目名　教育分野に関する理論と支援の展開（教育心理学特論）
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　今田雄三，吉井健治，小倉正義　　回答者数 27 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	20	4	2	1			4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	5	1				4.7
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	7	1				4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	6	6	1			4.2
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	19	6	1	1			4.6
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	17	6	4				4.5
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	16	7	3		1		4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	19	6	2				4.6
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	20	4	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	7	3	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18	7	2				4.6



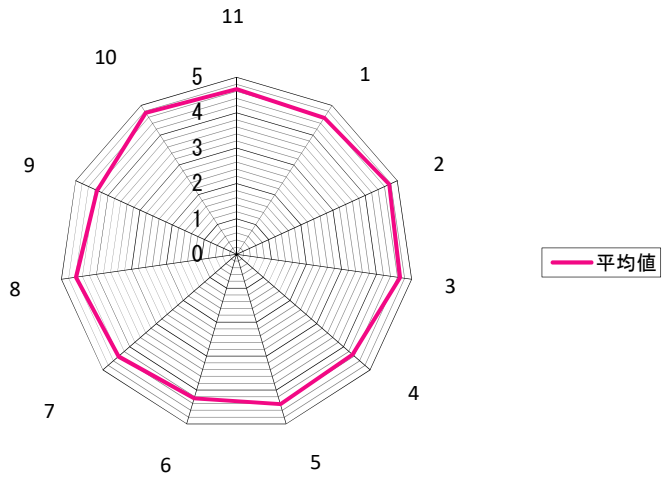
教員のコメント

(1)～(11)の各項目ごとの評価の平均値は11項目全てで4.0点以上であった。うち8項目では4.5点以上であり、総合評価の(11)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.6点の評価を得た。よって本授業は受講生から非常に高い評価を得たものと考える。自由記述[2]の、この授業のよかった点として、「資料がわかりやすかった」という意見が多かった。自由記述[3]の、この授業の改善点としては、「教員の声が聞き取りにくかった」という意見などが寄せられていた。今年度はコロナ感染防止のため、講義室ではない広い部屋（F会議室）で本授業を実施したことも影響していると思われる。次年度は部屋の後ろにもしっかりマイクで音声が届いていることを確認するなどの対応を行いたい。

結果報告書

授業科目名　司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開（犯罪心理学特論）
評価実施日　令和2年9月18日
担当教員名　黒澤良輔　　回答者数 12 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	3	1				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	3					4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	4					4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	4	2				4.3
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	5	1				4.4
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	5	5	2				4.3
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	6	5	1				4.4
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	7	5					4.6
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2	1				4.7



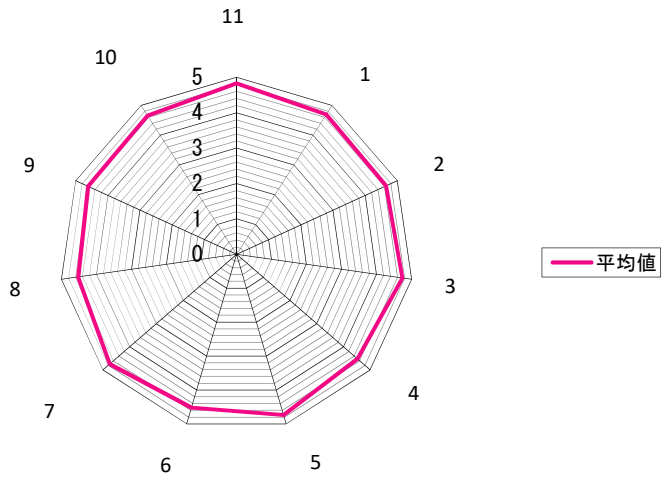
教員のコメント

今後は以下の点を改善したい。
（1）オンライン授業となったため、オンデマンド授業とリアルタイム授業とを組み合わせた。システムの使用方法等に慣れない点が多く、資料等の説明が十分でない点があった。
（2）オンデマンド授業では、動画を用いなかったため、プレゼンテーションスライドによる読解中心の作業になってしまった。
（3）オンデマンド授業の内容を，リアルタイム授業で深めることを意図したが、重複する部分も多く、予定した内容を十分に説明できなかった。
（4）アクティブラーニングの一つとして、Moodleを使用しての質問を義務とした。全員から質問を受けるという点では良かったが、それに対する説明への反応を見たり、さらに説明への質問を受けていくことなどができず、議論を深めていくことができなかった。

結果報告書

授業科目名　心の健康教育に関する理論と実践
評価実施日　令和3年2月4日
担当教員名　吉井健治，今田雄三，小倉正義，山崎勝之，内田香奈子　　回答者数 23 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	7					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	8					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	17	6					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	16	4	2	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	6					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	15	5	3				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	17	6					4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	8		1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	7	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	8					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	19	4					4.8



教員のコメント

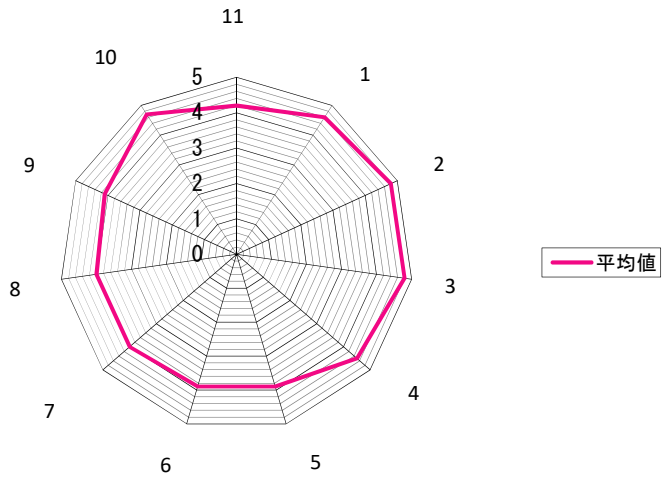
「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」(平均値4. 7)、「(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。」(平均値4. 7)は高い平均値であり、授業の内容に対して高い評価が得られた。総合評価の平均値は4.8であり、非常に高かった。自由記述では、「ビデオを見て、分かりやすかった」、「説明が丁寧で分かりやすかった」、「実際に現場で心の健康教育をやられている先生からお話が聞けて良かった」、「グループ討議で他者の意見をきくことができた」、「実践の基礎となる知識を得られた」など、好評であった。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅰ
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　久米禎子

回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	2					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7	2		1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3	1	2			3.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	2	3	1			3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1	2			4.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	2	1			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	4				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3	1	1			4.2



教員のコメント

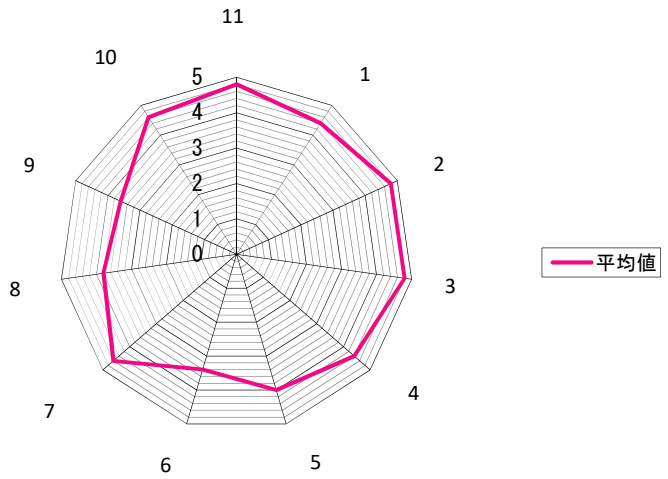
授業内容についてはおおむね専門的で役立つ内容だったという評価であった。それに対して進め方については評価が分かれた。予習においてまず自分自身で考え，授業でのディスカッションを通してそれを見直し，復習においてさらに考えを深める，という，主体性や内省力が必要な授業内容であったので，そうした作業に慣れているかどうかや興味をもてるかどうかが，取り組みやすさや理解度を左右する一因となったのではないかと思われる。今後は，考えを言語化し他者と共有したり，内省を深めたりすることが苦手な学生に対するサポートも考えていきたい。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究Ⅱ
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　葛西真記子

回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4			1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1	1				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	1	3	1				4.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。		2	3				3.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	1	3		1			3.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	1	2	1	1			3.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



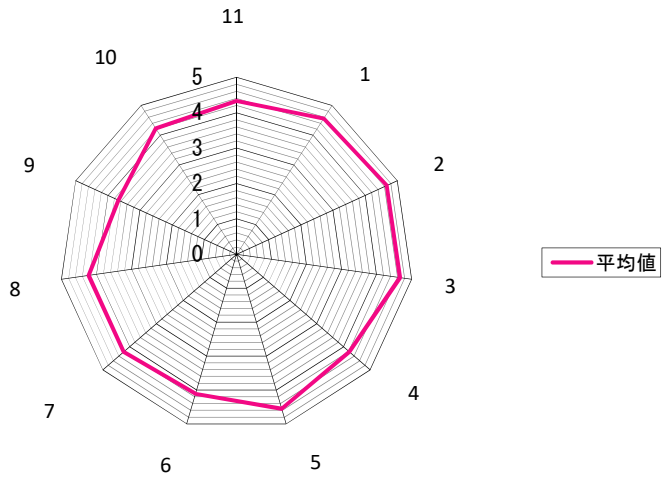
まずは回答率の問題がある。これまでは授業の最後に授業評価をしていたので、回答率はほとんど100%であった。今回もその場で「かならず回答すること」としてURLを示し、回答を促したが、それでも1/6の回答であった。大学として今後、授業評価をしていないものは、成績がつかない等なにか手立てを考える必要がある。その少ない5名の回答から今回の授業について考えると、「(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」は毎年とほとんど変わらず4.8と高い評価を得られた。本講義は、修士2年生が受講するということで、できるだけ実践に即した、今現在担当している心理のケースにも使える内容を教えることを基本としてるので、受講生は身近こととして、また自身の課題にあてはめて考えることができていたようである。特に「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」や「(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。」は、4.8であり、臨床の専門的知識に特化した内容を行ったことで受講生の役にたっていたようである。評価が他の項目より低かったのは、「(6)授業の進む速さは，適切であった。」3.4、「(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」3.6であった。授業の進む速さについては、自由記述にもある通り、内容が多く、少し速かったようであるので、今後は、内容を少し減らし、受講生の学びに合わせたいと思う。しかし、他の自由記述では、後半のアセスメントについてもっと詳しく知りたかったというのもあり、このあたりのバランスを考える必要がある。板書については、できるだしないようにパワーポイントに掲載しているつもりだが、さらにわかりやすい資料を作成する必要があるのかもしれない。視聴覚機器について、教室に設置されている機器が動かないときが2回ほどあり、その影響かもしれない。使用方法が毎回変わっていたり、他の教室と違っていると、毎回混乱してしまうので、このあたりは専門のTAやRAがいると助かるところである。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅰ
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　吉井健治，葛西真記子

回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	5	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	5	1				4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	4					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	5		1			4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3			1		4.2
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	3	2				4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	3	1	1	1		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4		1			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	3		1			4.3



教員のコメント

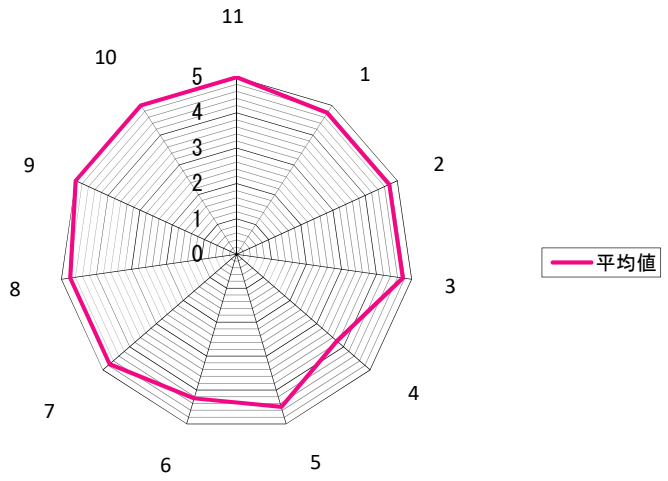
「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」(平均値4. 7)、「(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。」(平均値4. 7)は高い平均値であり、授業の内容に対して高い評価が得られた。他方、「(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。」(平均値3. 7)は低かったので、この点を今後改善していきたい。なお、受講生全員(約25名)に授業評価を依頼したのだが、ネットに自らアクセスしなければならなかったので、回答者が少なかったと思われる。

結果報告書

授業科目名　臨床心理面接研究Ⅱ
評価実施日　令和2年8月11日
担当教員名　粟飯原良造

回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	2		1	1			3.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



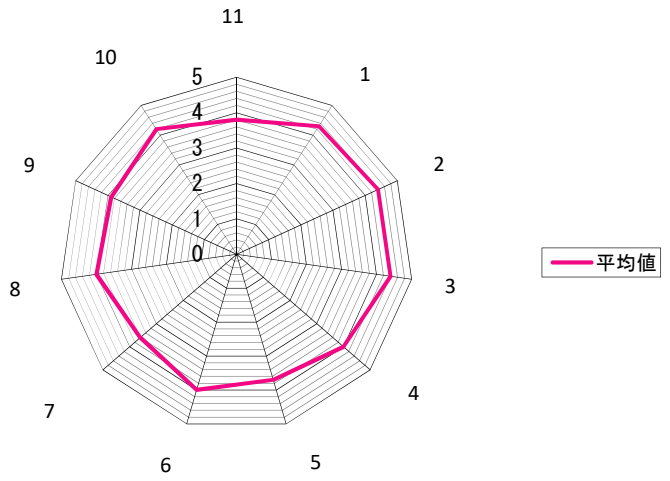
教員のコメント

回答者数が4名と少ないために明確な判断材料になり難いが、解答された範囲では、アクティブ・ラーニング以外は4．3以上の評価を受けた。今年度はオンデマンド型授業で行ったため,と思われる。対面式授業ができない分をUSBに音声付きパワーポイント、WORDのレジメを入れて配布したが、受講生の満足度が保持できたかどうかは、回答数が少ないために不明である。

結果報告書

授業科目名　臨床心理学研究法特論
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　葛西真記子，粟飯原良造，今田雄三，吉井健治，小倉正義，久米禎子，川西智也，古川洋和　　回答者数 10 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	5	1				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4	1				4.4
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	4	1				4.4
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	4	3				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	2	3	5				3.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	4	3				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	4	1			3.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	2	7		1			4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	5	3				3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	6	1				4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	2	5	2	1			3.8



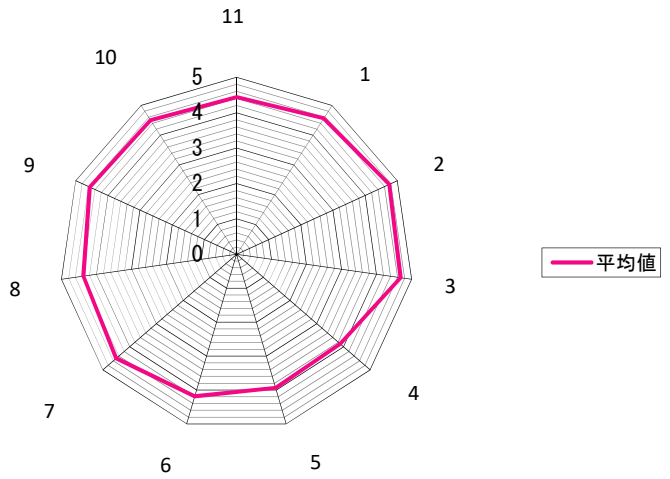
教員のコメント

本授業は、領域の教員全員で担当しているものであり、前半は各教員が自身の研究内容・研究方法についての講義、後半は、4名（葛西・吉井・川西・古川）による心理学領域での研究方法についての講義から成り立っている。そのため授業評価について授業全体への評価なのか、前半・後半、あるいは各教員への評価なのかを判断するのは難しいところがある。その中で、講義全体の評価としてとらえると、「この授業を総合的に評価するとよかったと思う」というのは、3.8と少し低めである。この得点になっている要因を考えると、「(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。」3.7、「(7)受講生に分かりやすく説明した。」3.6とこのあたりが低かったようである。確かに前半の成績評価、後半の成績評価の基準はかなり異なるところがあり、受講生にはわかりにくかったのかもしれない。また、内容を受講生にわかりやすく説明したかどうかとなると、各担当者、授業内容によって異なっていることが予測される。今後は、本領域の教員の中で成績評価の方法について、統一したものを作成し、初めのオリエンテーションで明確に説明すること、また、授業内容については、各教員に任せているが、FD等を利用して、全員がわかりやすい授業が行えるような努力をすること等が改善点として考えられる。しかし、他の項目は、ほとんどが4.0以上の高評価であり、全体としてよい評価であったと思われる。

結果報告書

授業科目名　保健医療分野に関する理論と支援の展開（精神医学特論）
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　今田雄三，古川洋和　　回答者数 16 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	3	2				4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2	1				4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	3	1				4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	5	3	1	1		3.9
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	4	3	1	1		3.9
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	6	7	3				4.2
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	9	6	1				4.5
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	9	4	3				4.4
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	10	5	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	3	3				4.4



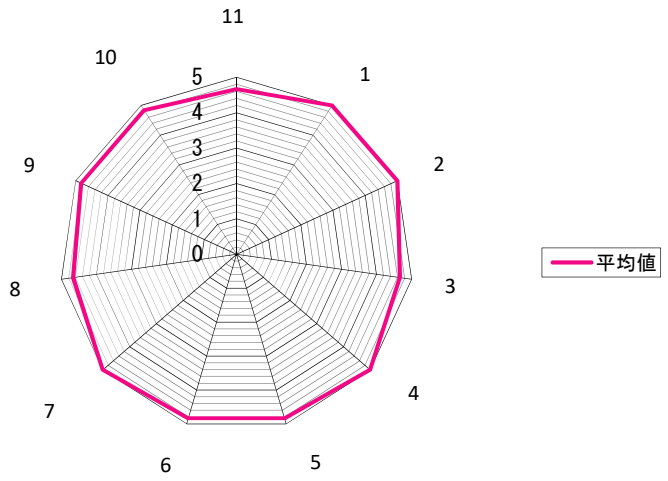
教員のコメント

質問11項目中9項目で評価の平均値が4点以上であり、うち6項目では評価の平均値が4.5点以上であり、総合評価(11)「この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。」では4.4点と評価されており、本授業は受講生からは高い評価を得られたものと考える。また、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価の平均値については昨年度の3.7点から4.8点と上昇していた。ただし受講者の自由記述には(3)の項目に関連する記述は含まれておらず、この項目に関し具体的な内容を検討することはできなかった。自由記述を回答していた者は4名と少数であったが、本授業のよかった点として「資料や説明がわかりやすかった」ことが挙げられていた。授業の改善点として、「分量が多すぎる」「教員の声が聞き取りにくい」「試験の出題が不適切ではないか」といった意見が挙げられていた。なお本授業ではアクティブラーニングを実施しない旨を明記し、質問(4)の項目は昨年度においてはアンケートから外していたが、今年度はコロナ対策の関係でオンライン上で回答する方式が採られ、個別の授業ごとに回答項目を外すことが出来なかったため、実施していない要素を評価する矛盾が生じた。本授業においてはアクティブラーニングの実施の有無にとらわれることなく、今後も受講生が基本的知識をきちんと習得することを主眼においた授業を展開しつつ、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、後日LiveCampus上で質問に回答する等の対応を継続することで学習効果を高める取り組みを継続したい。

結果報告書

授業科目名　産業・労働分野に関する理論と支援の展開
評価実施日　令和2年12月23日
担当教員名　古川洋和　　回答者数 6 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5		1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5		1				4.7



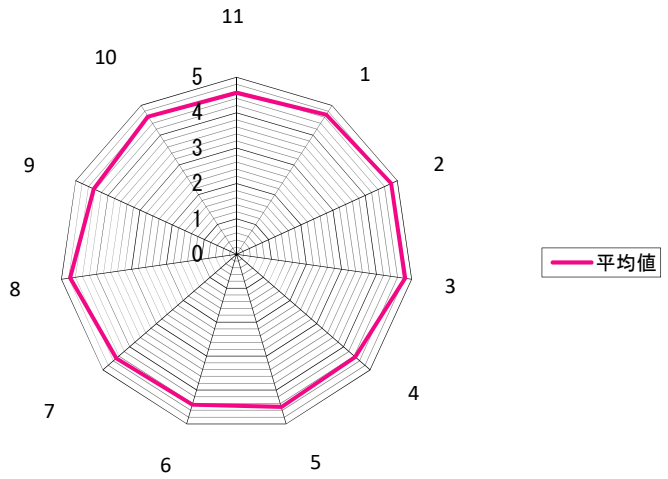
教員のコメント

公認心理師カリキュラムにおける産業・労働分野は、労働者のメンタルヘルスへの対応から労働パフォーマンスの向上、トータルヘルスプロモーションを含めた多岐にわたる内容を網羅することが求められる。本講義は、集中講義形式で実施する都合上、各回の内容を補完するための資料を提示し、次の内容につなげる形式を取ることができない。そのため、網羅しなければならない内容を矢継ぎ早に紹介する方法を採用している。回答者の大半は満足しているため、次年度も同様の内容にて構成する。

結果報告書

授業科目名　心理的アセスメントに関する理論と実践（臨床心理査定演習Ⅰ）
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　吉井健治，小倉正義，粟飯原良造，今田雄三，久米禎子，川西智也　　回答者数 16 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	5					4.7
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	3					4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13	3					4.8
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	7	1				4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	6	1				4.5
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	9	6		1			4.4
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	9	6	1				4.5
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	12	4					4.8
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	5	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	7					4.6



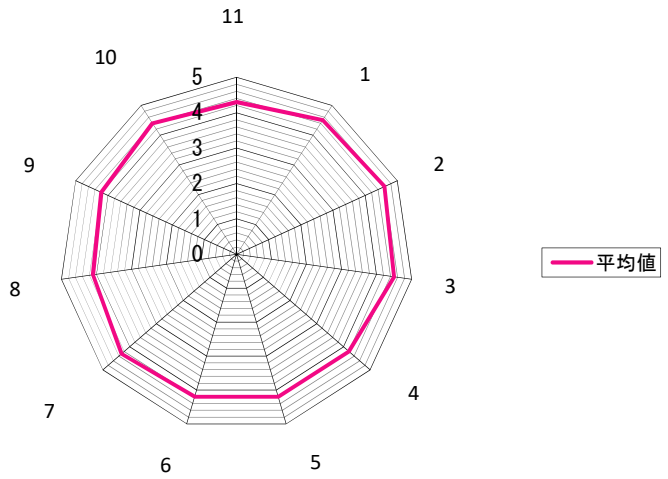
教員のコメント

「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」(平均値4.8)、「(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。」(平均値4.8)は高い平均値であり、授業の内容に対して高い評価が得られた。総合評価は、4.6であり、高い評価が得られた。自由記述では、「体験しながら学ぶことができて楽しかった」、「実際の心理検査を用いて学べた」、「検査に関する知識を得て、役に立った」など好評であった。

結果報告書

授業科目名　心理支援に関する理論と実践
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　久米禎子，葛西真記子，古川洋和　　回答者数 10 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	3	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	1				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	3	1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	4	2				4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	3	1	1			4.2
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	4	2				4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	3	2				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	4	1	1			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	3	1	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4	1				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	5	1				4.3



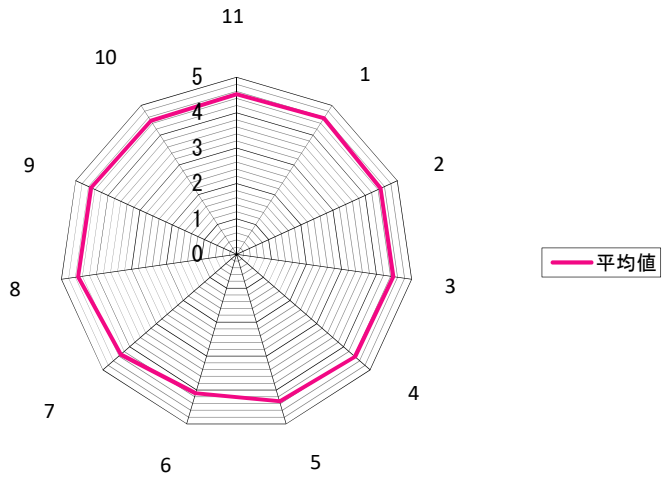
教員のコメント

全体的に肯定的な評価であった。3名の教員がオムニバス形式で実施している授業であり，幅広い内容を扱っている点も，学生には肯定的に受け止められているようである。授業の進め方については，「わかりやすかった」「適切であった」と評価する学生がいる一方で，低い評価をつけた学生もいた。学生の理解度には個人差があるので，個々の学生の基礎知識の量や理解力にも配慮しながら授業内容や進め方を工夫していく必要があると思われる。

結果報告書

授業科目名　家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践（家族心理学特論）
評価実施日　令和2年8月5日
担当教員名　粟飯原良造，川西智也　　回答者数　21　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	3		2			4.6
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	5		2			4.5
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	5		2			4.5
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	5		1	1		4.4
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	7		1	1		4.3
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	8	9	2	2			4.1
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	13	5	1	1	1		4.3
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	15	4		2			4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15	4		2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	6	1	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	2	1	2			4.5



教員のコメント

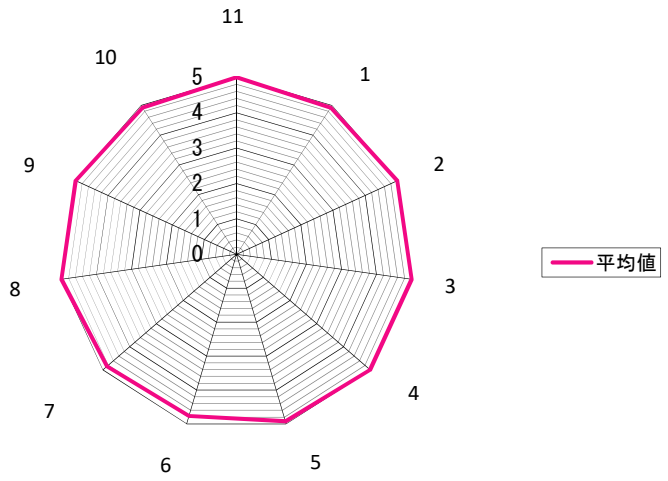
回答された全ての項目で4．1以上の評価を得た。シラバスにそった内容を受講生に提供できたと思われる。オンデマンド型授業と対面式型授業の併用で受業を行ない、授業内容の難易度、進行度も受講生に合っていたと思われる。

結果報告書

授業科目名　心の発達・教育創造研究
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　山崎勝之

回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	13						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	13						5.0



教員のコメント

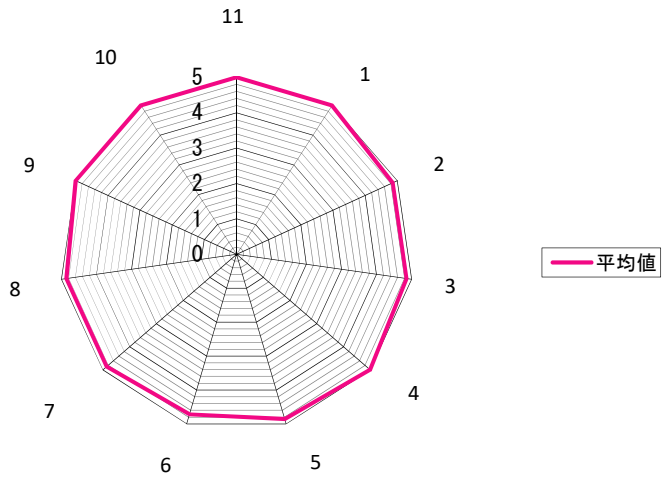
総合評価5.0となり、下位評価項目も4..8～5.0と高評価となった。このような高評価になったのも、学生の積極的な授業参加によるものと心得ている。
大学院の授業であるからには、最新で、最先端の知見ともに、独創的な考察と、アピール性の高い発表態度が求められるが、それらがほぼ実行できた授業となったと判断ししている。このような授業とすることができ、授業者自身は安堵し、参加学生には最大限の敬意を払いたい。

結果報告書

授業科目名　心の発達・教育創造演習
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　山崎勝之

回答者数 7 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	2					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



教員のコメント

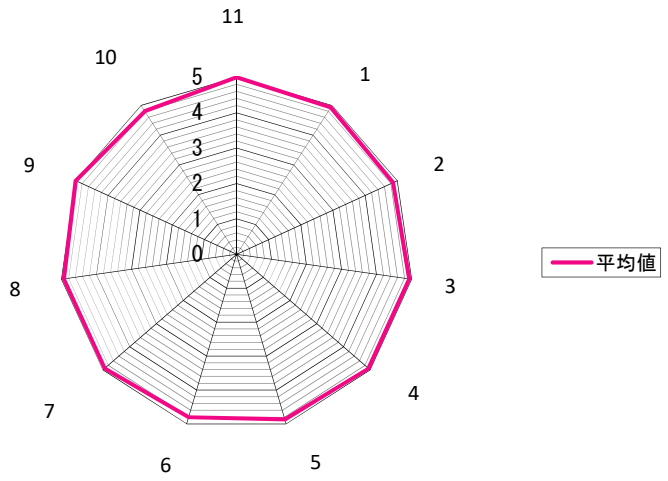
この授業は演習授業で、深く独創的な考察が求められ、高度で高い負荷のかかる授業である。
それにもかかわらず、総合評価が5.0となり、下位項目でも4.7～5.0の高評価となった。これは、学生の参加度が高く、また授業への取り組みの真摯さによるものであろう。この点で授業者は助けられ、満足の行く授業ができたと感じている。この授業を通して、独創性豊かな考察とその発信力が身についた、あるはその育成への土台ができたものと期待される。

結果報告書

授業科目名　心理教育科学研究
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　内田香奈子

回答者数 15 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	2					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14		1				4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	13	1	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	14	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	3					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15						5.0



教員のコメント

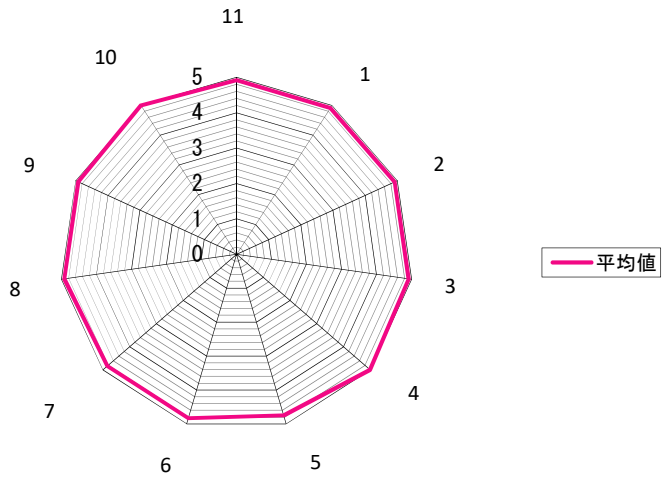
本授業は、旧課程で開講されていた予防教育科学の授業から、内容をより充実させる形で開講された講義であり、今年で2年目となる。領域として、より専門性の高い内容を提供するため、昨年に引き続き、心理学の基礎研究に関する知見を分かりやすく提供するように心がけた。また、現場での実践内容については、より詳しい解説を加えながら、教員が小中学校の教師役を、受講生が児童・生徒役となり、授業を体験してもらう形を取った。その結果、総合評価は5.0となり、昨年より高い数値を得ることができた。コメントも総じて肯定的なフィードバックであったが、時々テンポが早い、あるいは領域外の人にとっては難しい内容かもしれないとの意見があった。領域用に専門性を高めたが、他分野・領域からの受講生や留学生もいたため、このようなコメントがあったように感じる。今後も内容をブラッシュアップしたい。

結果報告書

授業科目名　心理教育科学演習
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　内田香奈子

回答者数　12　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	12						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	1	1				4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	1					4.9



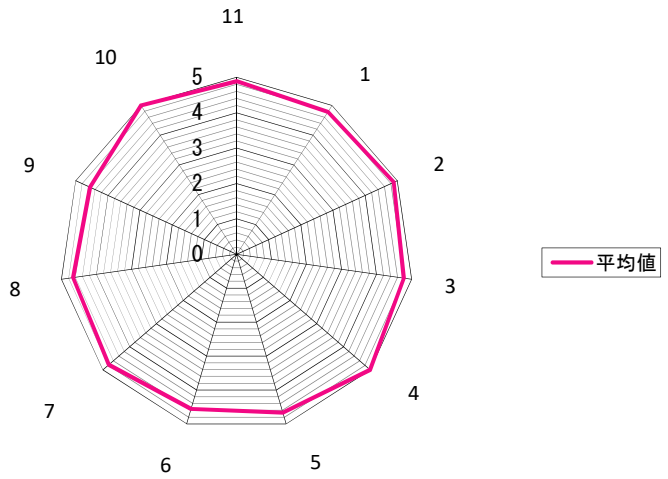
教員のコメント

本授業は新課程より新たに開講した科目であり、今年度で2年目となる。自ら論文を読み、エビデンスを抽出し、その上で簡単な予防教育プログラムを構築できることを目指した授業を展開した。その結果、総合評価が4.9、各項目も4.8以上の評価となり、昨年度より高い値を示した。コメント欄からも実際に教育プログラムを作成できる点や、エビデンスを探す癖がついたことが良かったなどのコメントがあった。また、今年度はコロナウイルス対策のため、オンラインによる講義や話し合いも求めた。そのため、例年より説明が十分にできなかった点などが授業者としての反省点となる。次年度はどのような形態になるかわからないが、今年度の経験を次年度の授業にもつなげたい。

結果報告書

授業科目名　心理･教育科学測定･評価演習
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　山崎勝之，内田香奈子　　回答者数 9 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	2					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6	2	1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	2					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	3					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



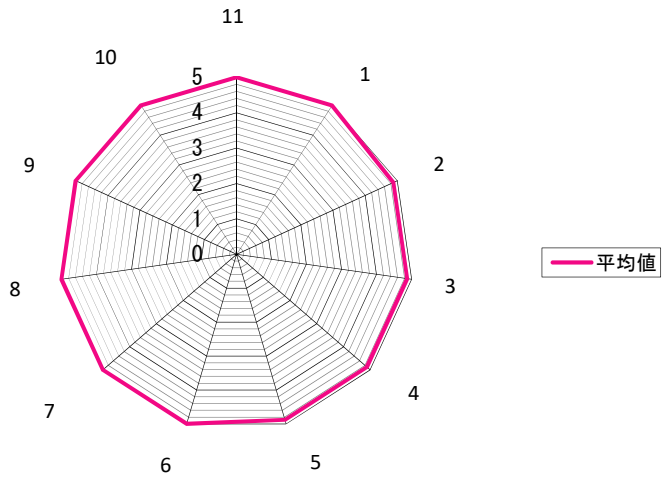
教員のコメント

本授業では心理的な評価を行う際に注意すべき最新の心理学に関する理論的側面と、実際の統計ソフトHADを利用した実践的側面をオムニバス形式で実施した。その結果、総合評価で4.9を、各項目でも4.6以上の評価となり、昨年度よりも高い値を得ることが出来た。コメント欄からも毎時間論理的思考を巡らす機会があった点や、修士論文に直結する分析スキルなどの習得が出来た点、さらにデータの読み取り方やまとめ方などを学べた点などが高く評価されていた。今後もより学生のニーズを捉え、対応できるように授業を構築したい。

結果報告書

授業科目名　予防教育開発・実施演習
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　山崎勝之，内田香奈子　　回答者数 8 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8						5.0
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1					4.9
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	8						5.0
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	8						5.0
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	8						5.0
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8						5.0



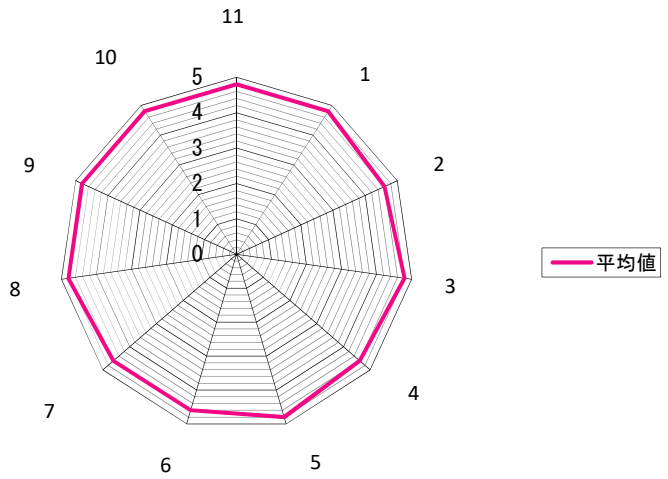
教員のコメント

本授業は通年で実施された授業となる。前期は主に予防教育に関する論文や書籍を読み、グループで発表する形式を、後期は教材作成の練習から、実際に模擬授業用の教材を作成し、各自が予防教育の模擬授業発表を行う授業内容をオムニバス形式で実施した。その結果、総合評価で5点の評価を、各項目も4.9以上の評価となった。コメントからも通年を通じて理論から実践面へつなげる授業体系であったことや、教材作成の実践練習を行っている点、そして実際に模擬授業を実施する中で授業スキルを高めることが出来たなどが評価されていた。ただし、今年度はコロナウイルス感染対策を行いながらの演習授業となったため、現場への訪問などを取りやめ、ビデオ視聴などに切り替えた。次年度も適宜対応しながら進めたい。

結果報告書

授業科目名　臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　高橋眞琴　　回答者数 5 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値(項目別)
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4		1				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4		1				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4		1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	1					4.8



教員のコメント

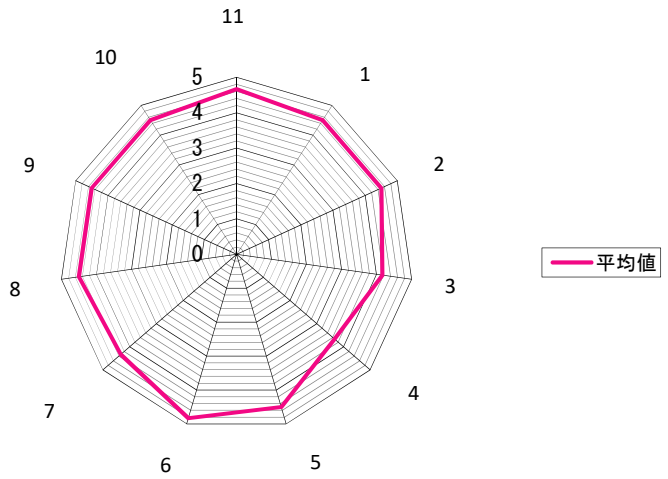
本年度は、新型コロナウイルス感染症対策や緊急事態宣言発出等の影響で前半は、オンライン授業、後半は対面の授業といったハイブリッドな授業形態となった。今年度は他コースの大学院生の方も受講されており、対面授業のみであった昨年度の評価から少し変動があったが概ね好意的な評価であったと考える。尚、本授業については、アンケート調査終了後の後期も受講した大学院生が中心となって、授業で取り組んだ内容を鳴門教育大学授業実践研究誌に取りまとめている。

結果報告書

授業科目名　生理心理学
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　田中淳一

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3					4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1	2				4.2
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3	1		1	1		3.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5		1				4.7



教員のコメント

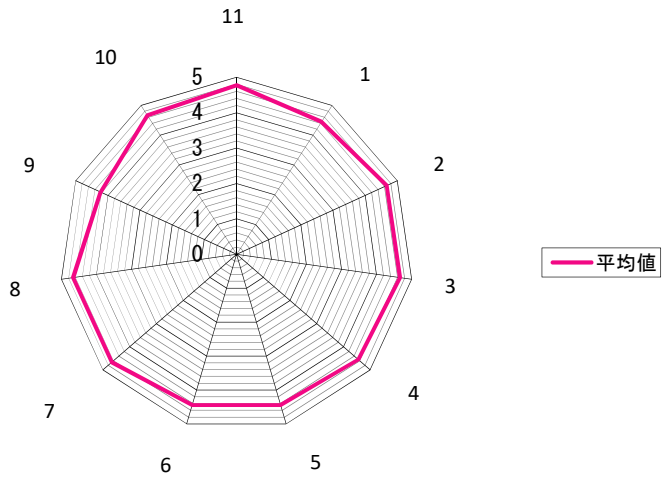
対面とオンラインの授業であった。第1回～第15回の全ての講義についてmoodle上にあげてあり、出席できない場合でも学習できるようにしたが、ｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞについては課題があり、検討が必要であると考えられる。全体的にみてまずまずの評価が得られていると思われるが、改善点が多々残されている。特に、授業の内容につては、精査が必要である。また、 授業に積極的に取り組むことを促すように努めなければならない。

結果報告書

授業科目名　社会認識の方法
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　山本準

回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1	2				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1				4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	1	1				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7		2				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1			1		4.4
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7	1			1		4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	7	1	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1	1		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7	2					4.8



教員のコメント

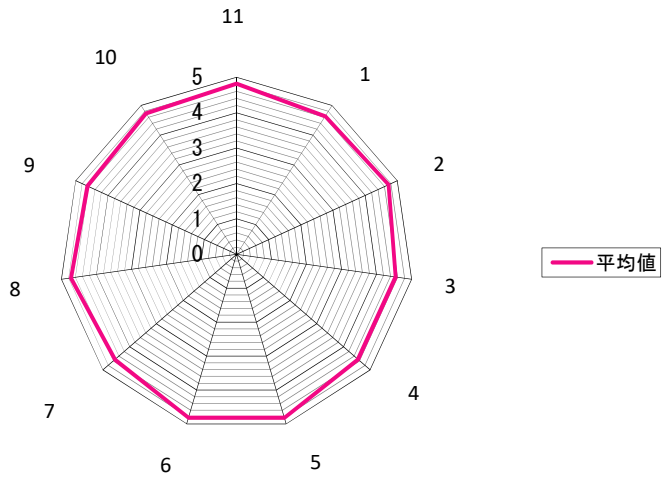
授業全体の総合評価を見れば、平均4.8なので多くの学生が満足できる授業であったと思える。

結果報告書

授業科目名　現代の子どもと学校教育
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　谷村千絵

回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	7	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	3	1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	7	3	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	2					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1	2				4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	3					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	2					4.8



教員のコメント

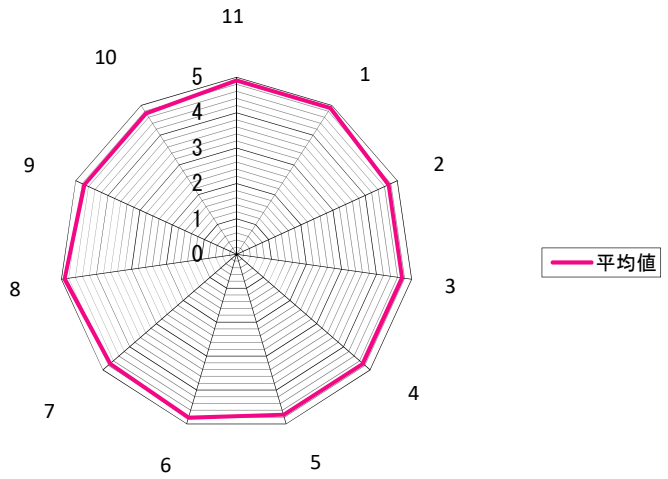
臨時休業中の課題、オンライン授業、対面授業の3つを組み合わせて、状況に対応した。
結果的に、シラバスとは内容が異なる箇所もあり、また、自由記述では、Teamsでの授業は、声が聞き取りにくいなどの問題があったことが分かった。不具合については授業中に申し出るように伝えていたが、微妙な不具合についてはマイク機材の改良などを考えていきたい。オンラインで課した課題については、取り組みに難しさを感じた学生もいたことが分かったが、自由記述からはmoodleでのディスカッションがとてもよかったというコメントもあった。アクティブに参加し、思考を促される授業であったというコメントも複数あり、状況に合わせて手探りで進めざるをえなかったことを考えると、概ねよい評価であると思われる。オンライン授業については、今後も、改善を試みたい。

結果報告書

授業科目名　現代教育人間論
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　谷村千絵，太田直也

回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	10	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	3					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	3					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	3					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10		1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	9	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	1					4.9



教員のコメント

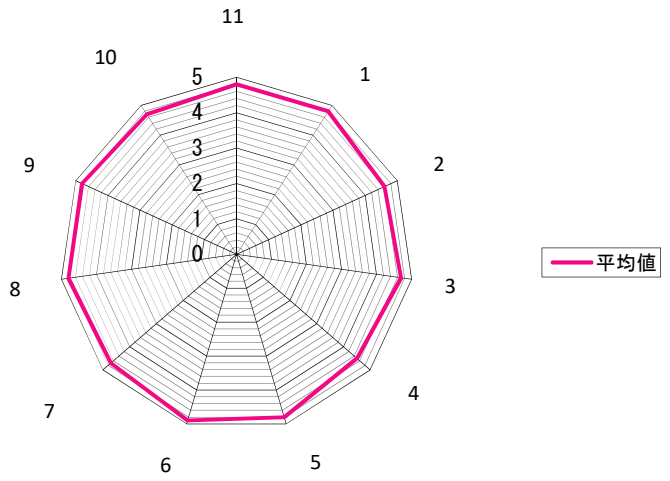
批判的実在論について講義を行なったが、興味をもってもらえたようでよかった。近森先生、太田先生と私の三人の鼎談の回は、大学院修士課程の内容としても非常にレベルが高いものとなり、大変刺激になったのではないかと思われる。お二人の先生に感謝したい。学生主体でディスカッションを取り入れたのは15回のうち、2，3回であるが、「ノートのノート」に記述された毎回のコメントの中から、いくつかには授業冒頭で触れるようにしていたので、学生にとっては学生主体という意識になりやすかったのだと考える。抽象的な哲学の内容であったが、他コースの学生、現職教員院生、教職大学院の学生の受講もあった。自由記述に、時間がたりない、もっと学びたかったという声があったことを本当に嬉しく感じる。

結果報告書

授業科目名　コミュニケーションと環境
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　金野誠志，谷村千絵

回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	1				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	3					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	3	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	2					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	3					4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	2					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	2					4.8



教員のコメント

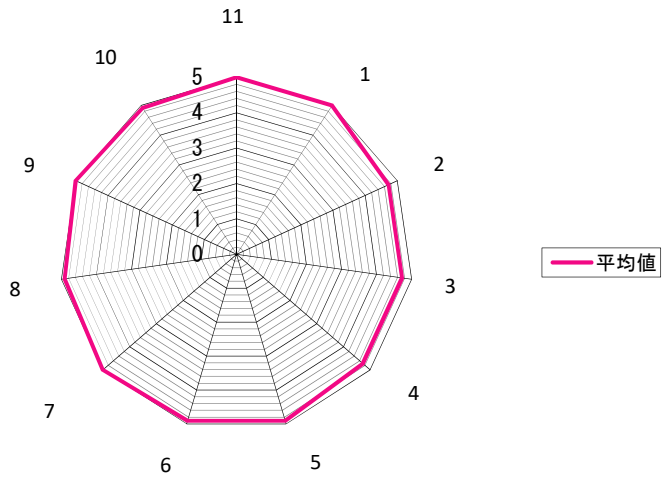
UNESCOの世界遺産教育(WHE)を批判的に検証し、他国の世界遺産教育と比較しながら再提案していくという授業の進め方自体が、受講生の関心や意欲を高めたと考える。授業内容も、科研費研究で得た知見を存分に反映したもので、専門的な知識にも触れることができた点も、高評価に繋がっていると考える。密を避けるということで、アクティブ・ラーニングが展開しづらい状況であったが、前半は、Teamsを使ってのリアルタイム双方向での議論も、取り入れ、それなりにできたと考える。

結果報告書

授業科目名　環境と文化
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　田村和之

回答者数　11　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	1	1				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	3					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	10	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11						5.0



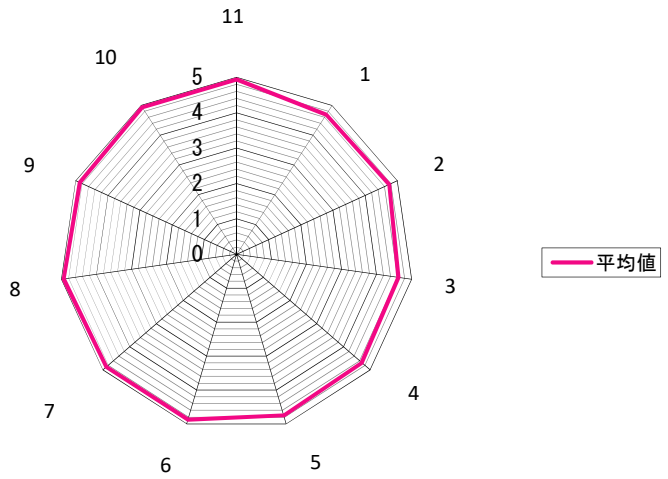
教員のコメント

受講者20名のうち、回答者が11名と回収率が半分程度であったが、概ね評価がよくオンライン（オンデマンド形式）での講義でもなんとか授業になっていることがわかった。
基本的に毎回の授業で小テストを行なっているが、最後の2回分については小テストの代わりに簡単なレポートを提出してもらう形にしているが、成績評価（バランス）の観点からレポートの数を増やしてほしいという意見があった。
ただ、このような意見は初めてであり（しかも、通常の年度よりレポートの方が点数配分が大きかったのだが）、2021年度はレポートの配点についてもう少し高めてみるのも良いかもしれない。

結果報告書

授業科目名　文化とコミュニケーション
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　金野誠志，太田直也　　回答者数 16 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	5					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	4					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	2	2				4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13	1	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	4					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	14	2					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	14	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	15	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	15		1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	1					4.9



教員のコメント

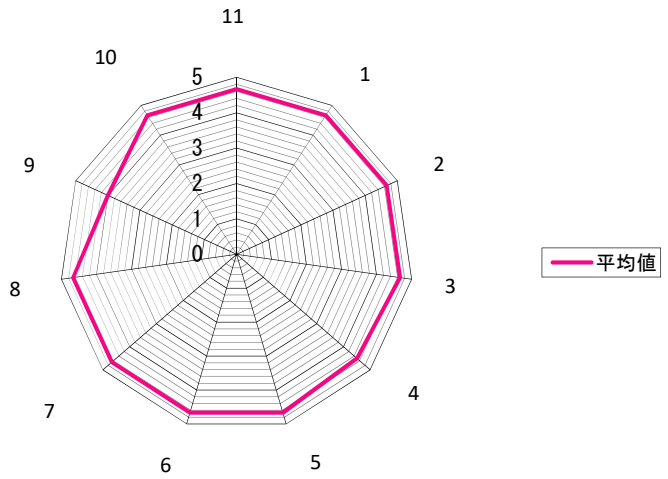
授業を通して行ったことは、構築主義的文化観に対する理解を深めることである。現在古より常識と考えられている事象が、実は、多くが近代になって創られたモノであり、いわゆる「伝統の創造」が行われているということを、具体例を出しつつ、分析していった点が、高評価に繋がっていると考える。修士課程では、物事を批判的に見て考えるということが重視されるべきだと考えるが、その感覚は、終始、体現できた点も、受講者の知的好奇心をくすぐったと考える。随所に、ワークショップ型の話し合いを取り入れたこともよかった。今後も、この方向性は継承していきたい。

結果報告書

授業科目名　人間と文化Ⅱ
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　太田直也

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	2					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4	2					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	2					4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4	2					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	2	2	2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



教員のコメント

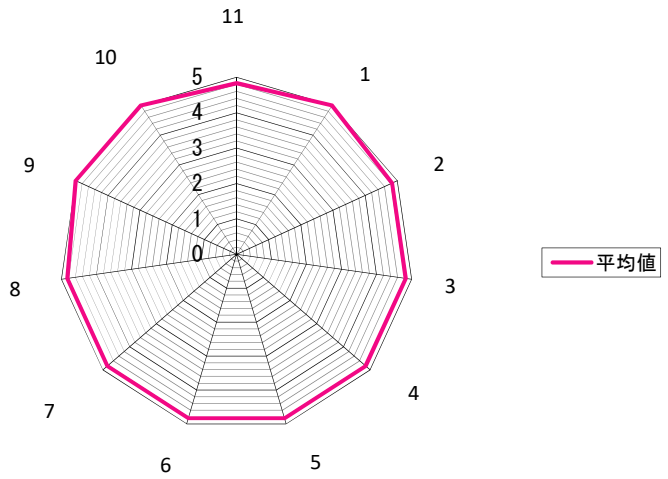
予定していた授業を展開できたわけでもなく、受講者にとっては必ずしも納得のいく授業ではなかったのではないかと反省しているが、高評価を頂戴したことに感謝したい。次年度への期待と激励であると捉えている。授業担当者としては、よりフレキシブルな授業準備の必要性を感じている。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅰ
評価実施日　令和3年2月10日
担当教員名　田村和之

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

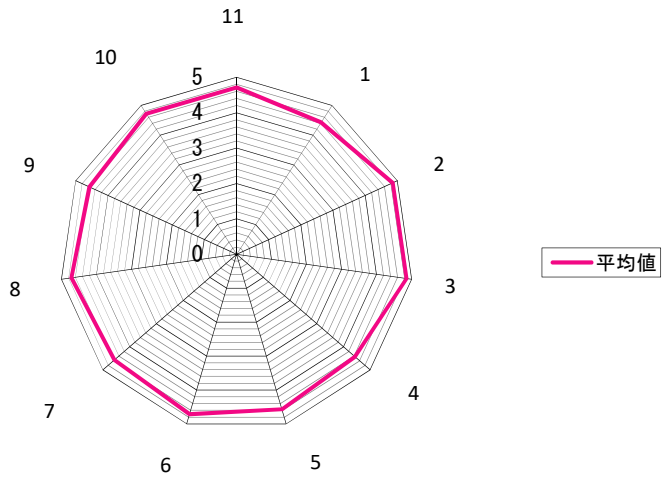
回答者数は少なかったが、自由記述には視野が広がった、というような表記もあり、授業の目的は十分達成できたと考える。また、あまり（学会と同様の）発表を行う機会がない学生も多い中、レジュメを作って発表をし、質疑応答も行うという一連の経験を学生ができることは非常に意味のある形式であることもわかった。
来年度も同様の授業を行なっていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　人間と環境Ⅱ
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　田村和之

回答者数　7　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	2	1				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	3					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6		1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	2					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	2					4.7



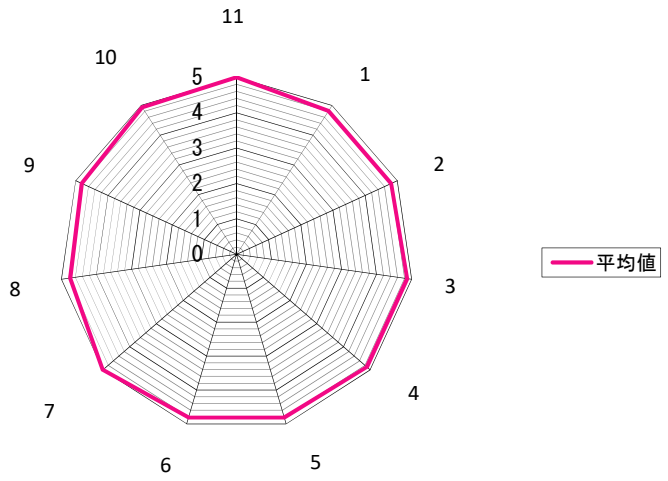
教員のコメント

今回はオンライン形式での授業の開始であったが、おかげで環境教育の実践に関する基礎的な理論を論文を読ませることから始めることが可能となり、例年よりも充実した学びがあったことがみられた。
例年は最初の数回、講義を行なってから学生に発表をしてもらい、その後全員でディスカッションを行なっていたが、今後はもう少し基礎理論についてしっかりと論文を使用してまとめさせていくことも対面授業でも行なっていきたい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅠ
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　谷村千絵，金野誠志　　回答者数 16 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14	1	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	3					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	2					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	2					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	13	3					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	14	1	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	4					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	3					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16						5.0



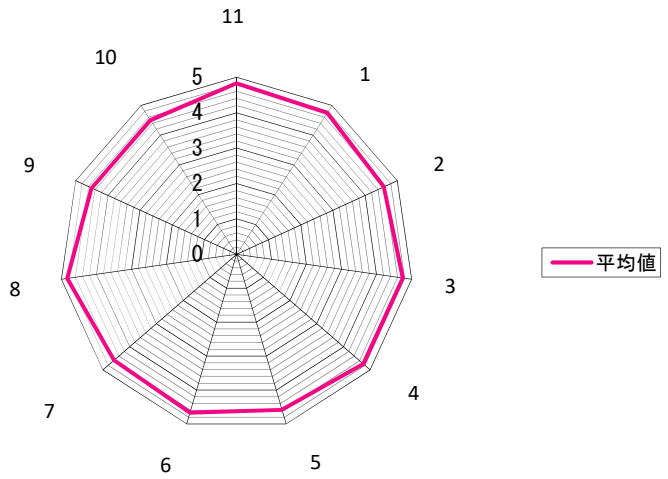
教員のコメント

オンライン対応の可能性を考えて、シラバスとは異なったが、15コマを通じ、哲学対話の実践を行なった。グループで対話できる状態になるまで、小ステップで少しずつ進んで行ったこと、時間を惜しまず、ゆっくり進んだことがよかったと思われる。毎回の対話のテーマ決めに時間をかけていたが、自由記述をみると対話の時間が少なくなるので、工夫して欲しいという学生の要望もあったようだ。対話への意欲と受け止めたい。時間配分ついてmoodleで意見を集約しておくこと等のよいアイデアを出してもらっているので、積極的に取り入れたい。

結果報告書

授業科目名　人間とコミュニケーションⅡ
評価実施日　令和3年2月4日
担当教員名　谷村千絵，金野誠志　　回答者数 12 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	3					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	5					4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	3					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	5					4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	4					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	4	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	2					4.8



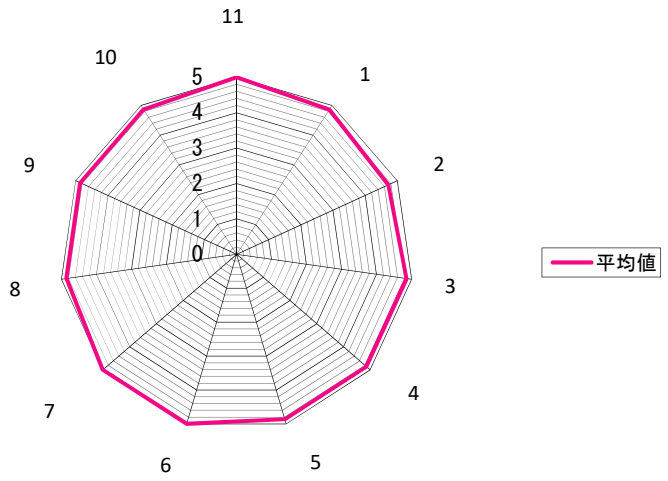
教員のコメント

オンライン対応の可能性を考えて、ポストマンの『子どもはもういない』を講読する授業スタイルを変更し、ゲーミングからみたコミュニケーションと学び（体験型）と文化による教育的コミュニケーションの違いを考えるため、『日本の15歳はなぜ学力が高いのか』の講読を行なった。自由記述に改善点として挙げられた「本の内容の信憑性と現状更新」については、変更したテキストが学術書ではなくルポ（著者は研究者）であることから、生じた疑問であると思われるが、教育現場のルポを読むということの意義を今後は明確に示したい。途中、オンライン授業でTeamsでのグループ討議も取り入れながらの試行錯誤であったが、概ね、よい評価であったと思われる。

結果報告書

授業科目名　国際教育人間論
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　石村雅雄，近森憲助，小澤大成，石坂広樹　　回答者数 7 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	6	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	7						5.0



教員のコメント

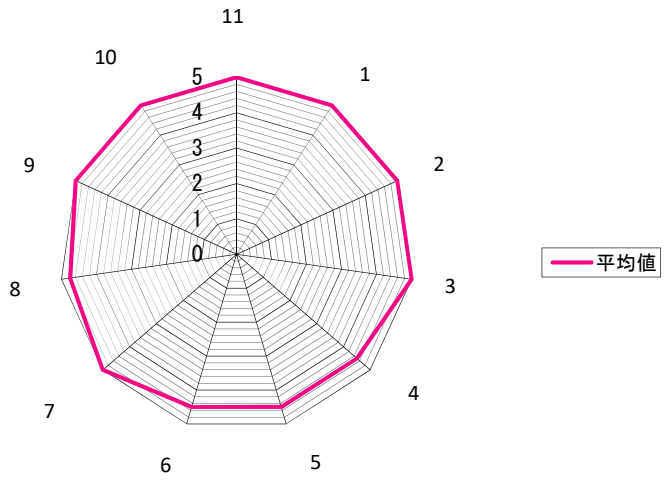
全体に受講生の評価も高く、オンライン授業が一部入ったにもかかわらず、各担当教員がそれぞれの創意工夫を生かして講義に臨んだ成果と思われる。来年度以降、さらに受講生にとって有益な講義を展開できればと考えている。

結果報告書

授業科目名　教育研究･調査
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　石坂広樹，小澤大成

回答者数 4 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3		1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3		1				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3		1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

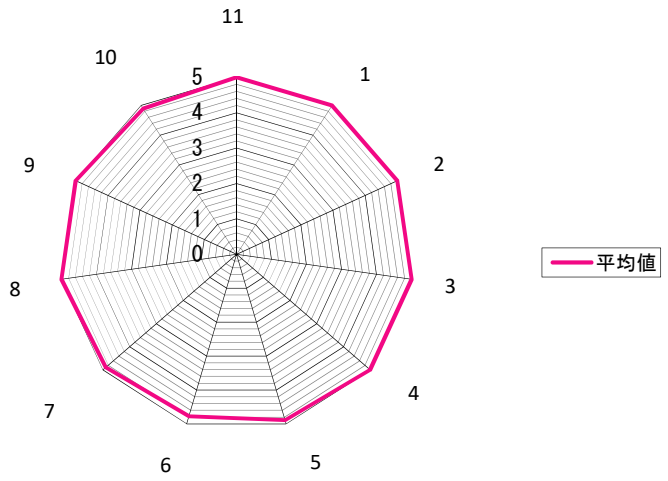
個別指導･補習などきめ細かく対応したことが高い評価につながったことと考える。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力研究
評価実施日　令和2年9月28日
担当教員名　石坂広樹，石村雅雄

回答者数　18　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	18						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	18						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	2					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	14	4					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	18						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	18						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	18						5.0



教員のコメント

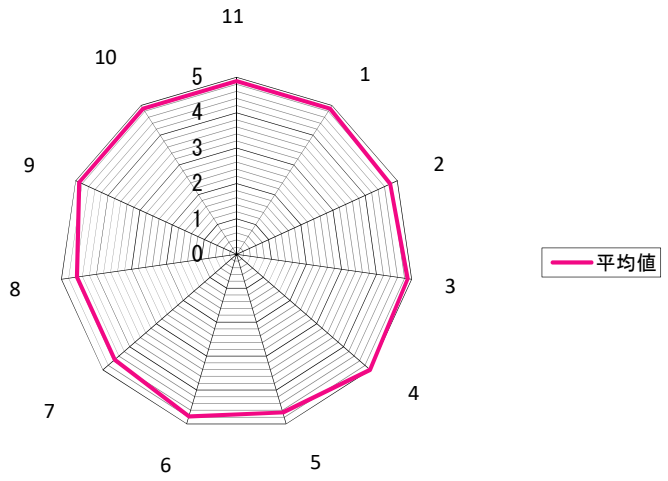
講義全体でグループワークや演習を多く取り入れたことが高い評価につながったものと考える。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力特論Ⅱ
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　小澤大成，石村雅雄

回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	1	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1				4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6	2	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



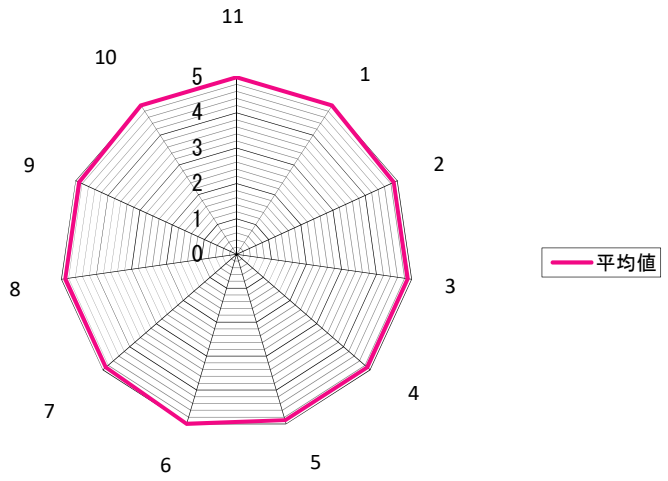
教員のコメント

総合評価は4.9と極めて高い。「他国の授業を見て、改善できるところを探すという課題は特に役に立った。」「途上国の授業が見られ、それを改善する方法を自分たちで考えるというアクティブな学びがあった。」といったコメントから,主体的な学習がなされていたことがわかる。

結果報告書

授業科目名　国際教育授業開発
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　小澤大成，石坂広樹，近森憲助　　回答者数 9 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	8	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



教員のコメント

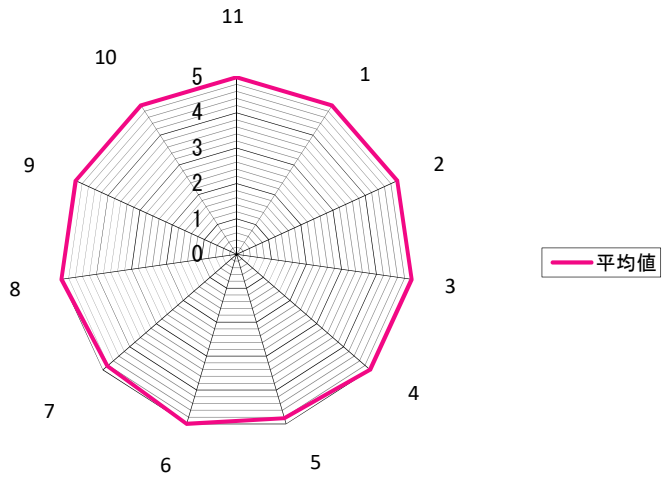
総合評価は5.0と極めて高い。様々な国出身の参加者が授業を計画・実施し議論する内容であり，良い点に関する「様々な国から来た受講者の教育事情を知ることができた。」というコメントもそれを反映している。

結果報告書

授業科目名　国際教育協力演習
評価実施日　令和2年9月28日
担当教員名　石坂広樹，小澤大成

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	6						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	6						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	6						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	6						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	6						5.0



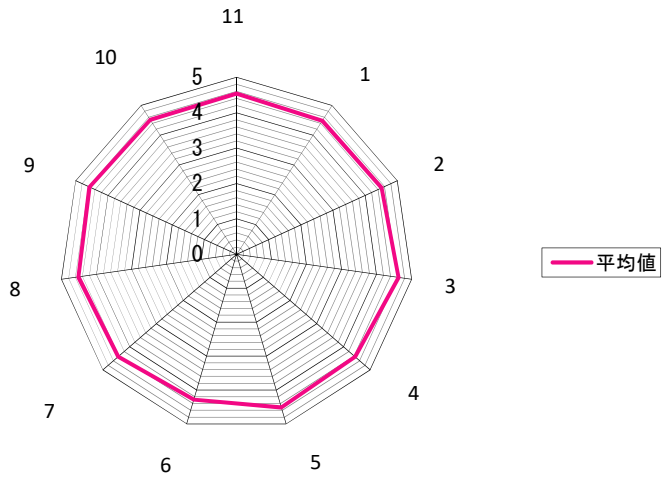
教員のコメント

講義全体でグループワークや演習を多く取り入れたことが高い評価につながったものと考える。

結果報告書

授業科目名　国際教育総合セミナーⅠ
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　石村雅雄，小澤大成，近森憲助，石坂広樹　　回答者数 35 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	24	7	2	1	1		4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	7	5				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	24	9	2				4.6
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	23	5	6	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	23	7	5				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	19	10	3	3			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	24	5	3	3			4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	23	8	3	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	23	9	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	12	1	1			4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	24	6	5				4.5



教員のコメント

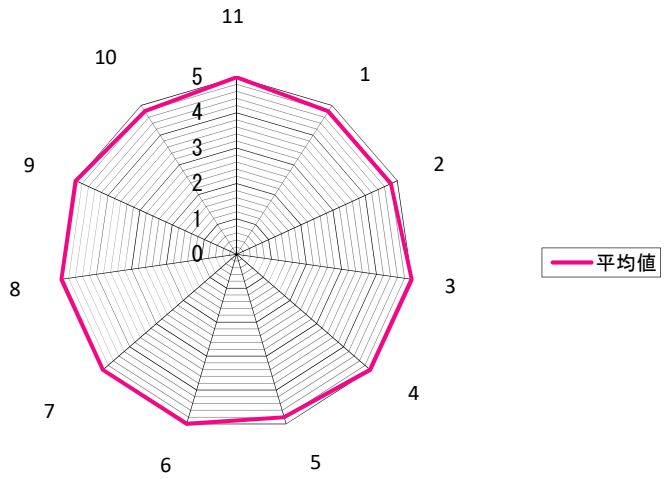
学生が発表し、参加者がそれにコメントする、本年度はさらに、授業後にオンラインでコメントすることも加わるという聊か変則的な展開であったことが評価結果に影響したと考える。例年は、オンライン上への発表資料のアップロードなど学生への負担はないのであり、さらに、対面上で指導教員のコメントをすぐにもらえるということが弱かった点も指摘できよう。

結果報告書

授業科目名　国際教育数学内容論
評価実施日　令和2年9月10日
担当教員名　松岡隆

回答者数　5　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5						5.0



教員のコメント

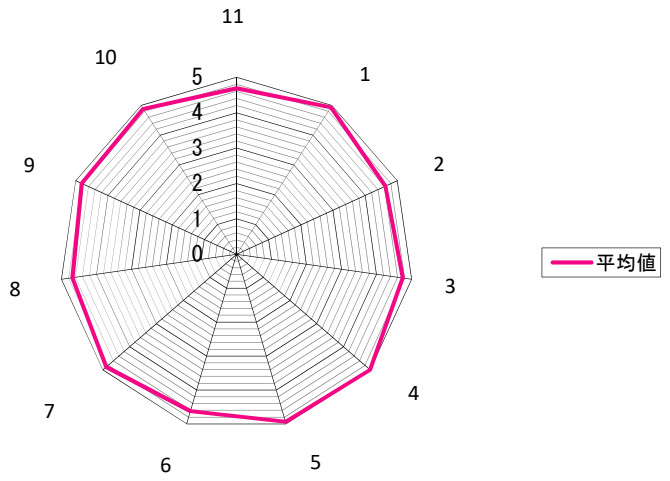
総合評価は5．0であり，全体的に高い評価が与えられている。
自由記述の「よかった点」および「その他，感想」欄には，教材を使って数学的に考えることの面白さを実感した，体験することで図形を確認できた，図形を紙で作製する技術を学ぶことができたがこの技術は海外でも役立つ，実践的で実際の現場で役立つ知識を学ぶことができた，などといったような意味のコメントがあった。
一方，改善点として，次の2件の回答があった。「国際協力における算数の授業づくりについての話も聞きたかったです。」「Maybe, if any, professor might try to start checking students work in different order, sometimes starting one side, some others from other side. But, it's not that important.」授業時間の制限はあるものの，国際協力の視点をさらに強調することで，授業をより改善できるかもしれない。

結果報告書

授業科目名　日本語文法研究
評価実施日　令和2年8月12日
担当教員名　田中大輝

回答者数　16　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2	2				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	4					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	16						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	15	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	12	2	2				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15		1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	1	2				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	3	1				4.7



教員のコメント

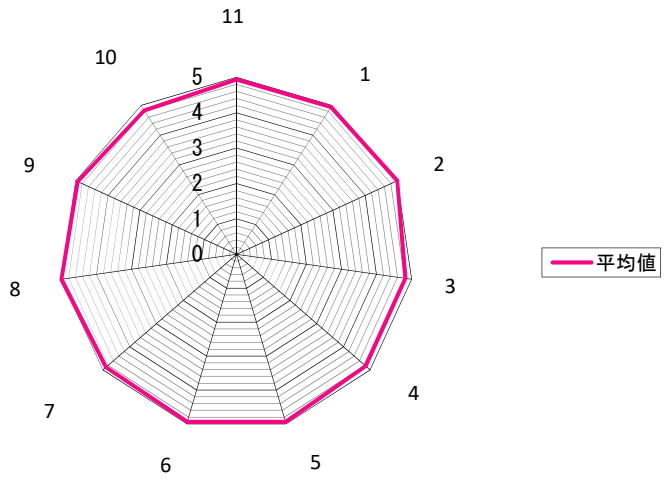
本授業では，日本語文法のうち，特に，日本語教師としての基礎的事項，および，日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「一方的な受け身の授業ではなく、自分でも考える授業であった。」，「先生のフォローや、サポートがかなり手厚く深い学びとなった」など，授業の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「かなり発表に対してのウェイトが重く他の授業との兼ね合いでかなり負担になる」，「もし発表の時間が長くなったら内容を詳しく紹介できたと思いました。」など，評価全体に占める発表の割合が大きかったこと，また，（その割に）与えられた発表時間が少なかったこと等に関して改善（再考）を求める声が出ていた。本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，また，初めてオンライン（非同期型）と対面での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　日本語音声表現研究
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　田中大輝

回答者数　17　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	16	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	14	3					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	16	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	16	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	17						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	16	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	3					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	16	1					4.9



教員のコメント

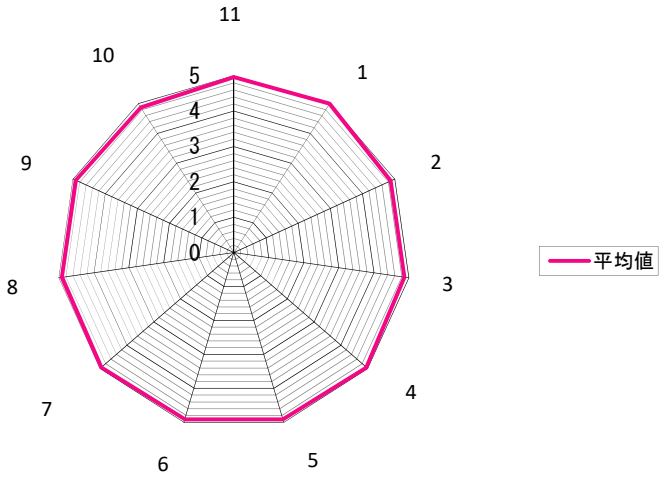
本授業では，日本語音声のうち，特に，日本語教師としての基礎的事項，および，日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「Onlineで学んだ部分について、対面授業開始後のフォローがあってよかった。」，「音声や、動画、イラストなど種々の資料を提供して頂いたので、視認できない自分の体内の器官と発声の関係を理解することができた。」など，受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で，「マスクして口形が見えなくなったので、発音の真似や判断が難しくなりました。」，「やむを得ないがマスクをしながらだと、発音練習は難しいものがあった。」など，コロナ禍での本授業の（特に対面授業の）あり方について検討を要する声も出ていた。本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，また，初めてオンライン（非同期型）と対面での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　日本語語彙論
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　田中大輝

回答者数　23　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	23						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	3					4.9
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	20	3					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	22	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	21	2					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	21	2					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	22	1					5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	21	2					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	21	2					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	3					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	22	1					5.0



教員のコメント

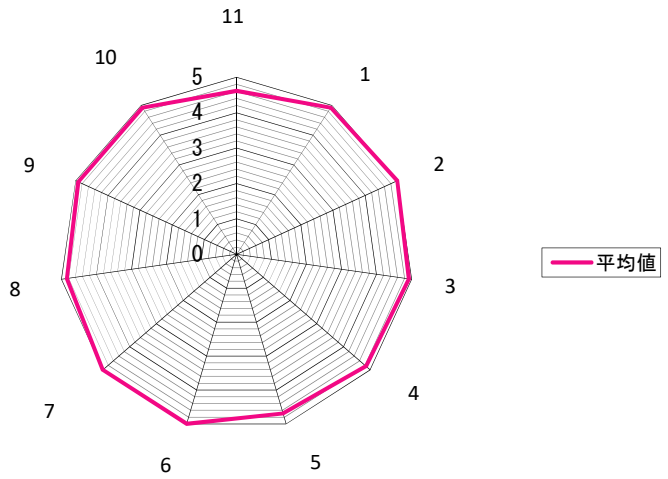
本授業では，日本語語彙のうち，特に，日本語教師としての基礎的事項，および，日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで，日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「語彙の知識を得るとともに、研究に必要な姿勢（課題の発見、調査、分析、人との協力、見やすい発表資料をの作成、わかりやすいプレゼン、時間厳守など）を学ぶことができた」，「活動としては大変だが、非常に勉強になる内容だった。グループ活動も先生のサポートがありなんとかやり遂げられた。」など，授業の内容を高く評価する声が多く見られた。一方で，授業参加者が多く，発表にかかる時間が多くなってしまったため，「講義の内容がもう少し増えたらありがたいです。」という声もあがっていた。本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，また，対面での授業とオンライン（同期型）での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　社会言語学研究
評価実施日　令和2年8月30日
担当教員名　永田良太

回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	1					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	11	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	10	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	13						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	13						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	11	2					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	1			1		4.6



教員のコメント

本授業は，「ことばのバリエーション」，「会話の仕組み」，「言語意識」，「言語政策」という観点から，普段無意識に使用している日本語の実態と使用規則について意識化するとともに，日本語教師として必要な社会言語学的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で，留学生や様々なコースの学生の参加が得られたことは有意義であった。留学生の参加が得られたことで，他の言語と比較を通して日本語の社会言語学的特徴が明らかになるとともに，日本語学習者としての視点からの発言により，習得上の問題点を確認することができた。今回はオンラインでの開講となったが，受講生からは活発に意見が出され，議論を深めることができた。

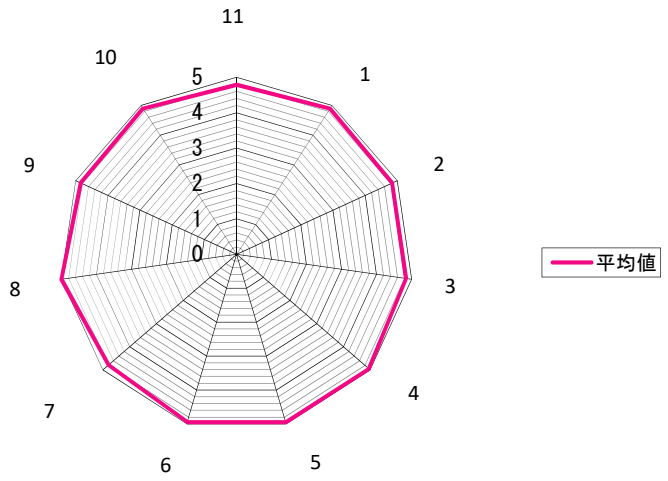
今回の評価結果を見ると，いずれの項目も高い評価を得ており，本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は，評価の観点をさらに明確にするとともに，それぞれのコース・領域・分野の目指す人材の育成に一層つながるような授業づくりに取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　言語習得･発達論
評価実施日　令和2年8月11日
担当教員名　田中大輝

回答者数 19 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	17	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	3					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	16	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ･ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	18	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	18	1					4.9
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	18	1					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15	4					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	19						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	17	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	15	4					4.8



教員のコメント

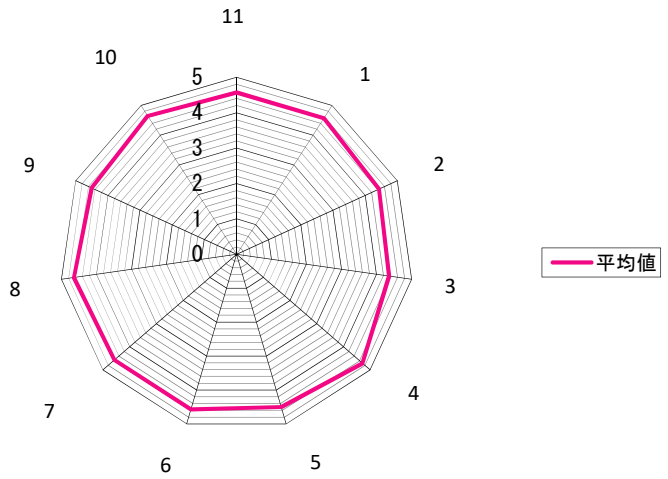
本授業では，日本語学習者の習得のメカニズムを理解し，実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「どのグループも充実した発表内容であり、探求型の学びという点でも院生らしい深い学びができたと思う。」，「説明が分かりやすく、先生や授業に対する質問や感想が授業はじめの時間にフィードバックとして全て反映されているところがとても良いと思いました。」など，授業の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で，「他の方が発表された内容については、理解できているのか不安な箇所が少しあります。」，「発表後のみんなの感想で、発表内容に関する指摘ではなく、pptの文字の大きさや、色などについての指摘が多かった。そんな細かいことをがんばって指摘するくらいなら、もっと内容をよく理解するほうに力を注ぐべきだと思った。発表を聞く側の姿勢も一度きちんと示したほうがよいのではないのかと思った。」など，発表をする側と聞く側の差（理解到達度の差，参加姿勢の差など）に対する不安・不満の声も少なからずあがっていた。また，本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，初めてオンライン（非同期型）と対面での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学研究
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　廣田知子

回答者数 14 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	4	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	5		1			4.4
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	5	2				4.4
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	10	4					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9	3	2				4.5
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	8	6					4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	3		1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	10	3	1				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	5	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3	1				4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	10	3		1			4.6



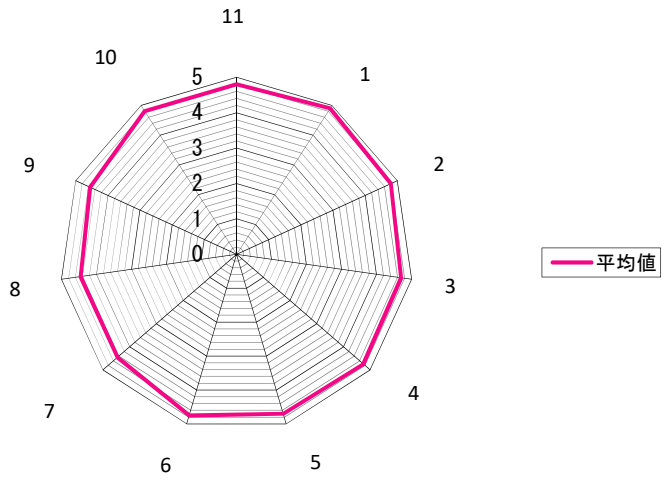
教員のコメント

学生の発表主体の授業を組み立てたがアンケートを読むと，教員の説明がもう少し欲しかったという希望が聞かれるので，来年度の担当の先生に伝えたいと思う。限られた15回という回数で，日本語教育学のすべてを伝えるのは，限界があるので，年度ごとに内容をピックアップして違ったものにするという方法もあるかもしれない。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法研究（日本語教育観察実習）
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　廣田知子　　回答者数 20 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	18	2					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	4					4.8
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	6					4.7
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	16	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	17	2			1		4.7
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	16	3	1				4.8
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	13	5	1		1		4.5
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	14	3	2		1		4.5
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	14	5			1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	4					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	17	2	1				4.8



教員のコメント

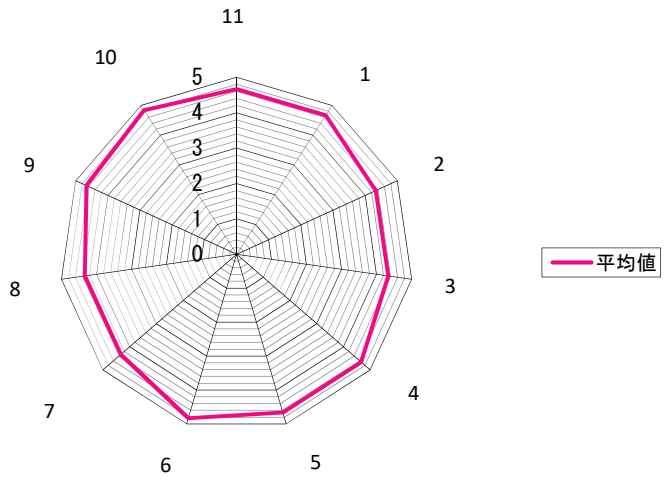
コロナ禍の中，主に日本語教育観察実習を行う授業のため，スケジュール調整に苦労した。自由記述のところに見学回数がもっと多ければ良かったという感想が多く見られたが，今後，コロナ禍が収まればもっと人数的にも回数的にも多く充実した観察実習が行えることと思う。

結果報告書

授業科目名　日本語教育学演習
評価実施日　令和2年8月11日
担当教員名　廣田知子

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1		1			4.3
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	2	1				4.3
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4	2					4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1				4.3
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3	2	1				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4	2					4.7



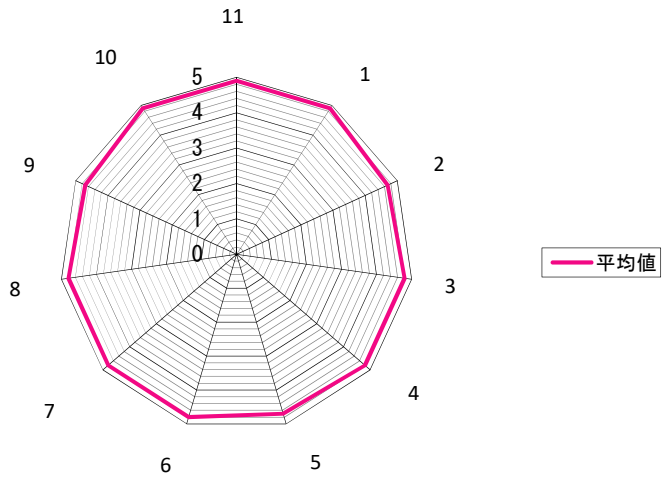
教員のコメント

自由記述は，今後の授業計画を立てる上で，とても参考になる。コロナ禍ということで，通常は後期に行うべき授業を前期に持ってきてしまったので，多少わかりにくい課題になってしまったことを反省している。AJALTという雑誌の記事を自由に選んでもらったが，学生に任せておくと，どうしても楽な記事を選ぶようになってしまうので，深い学びに至らなかった点があるかもしれない。今後は，ある程度教員側で内容や選ぶ課題を指定したほうがうまくいきそうである。

結果報告書

授業科目名　日本語教育法演習（日本語教育グループ実習）
評価実施日　令和3年2月4日
担当教員名　廣田知子，田中大輝　　回答者数　10　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	（1）授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9	1					4.9
	（2）専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	3					4.7
	（3）各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	2					4.8
	（4）授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	2					4.8
教員の授業の進め方について	（5）成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	3					4.7
	（6）授業の進む速さは，適切であった。	8	2					4.8
	（7）受講生に分かりやすく説明した。	8	2					4.8
	（8）教科書や配布された資料は，適切であった。	8	2					4.8
	（9）板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	7	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9	1					4.9



教員のコメント

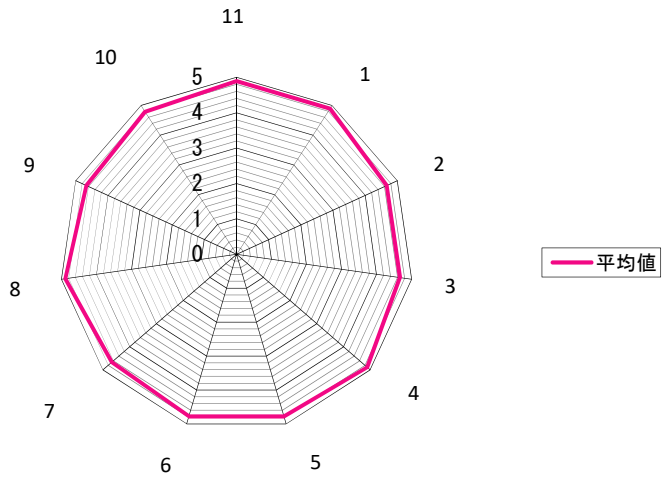
昨年度に引き続き，グループに分かれての模擬授業が主体の授業であった。受講者人数により，グループの人数や時間に限りが出てくるが，今年度は，30分という模擬授業時間であったため，少し物足りなさを感じた。やはり昨年度同様45分という設定にして，導入―基本ドリル―応用ドリル―まとめという一連の流れをすべて見せられたほうがやりやすいのではないかと思う。来年度は模擬授業の時間についてさらに深く考えて，実行するようにしたい。また，属性を考えてのグループ分けは，平等にという点でも効果的だと思われるので，引き続きそのようにして行いたい。

結果報告書

授業科目名　日本文化研究
評価実施日　令和2年8月11日
担当教員名　廣田知子

回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	8	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1				4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	3					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	7	2					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	7	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	3					4.7
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	8	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	6	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	8	1					4.9



教員のコメント

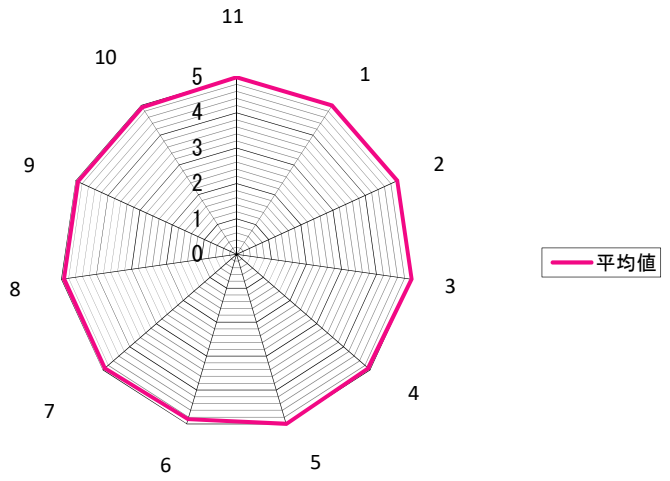
「日本事情・日本文化」の授業と同様，文化をどの範囲でどうとらえるかによって授業展開が変わってくるので，毎年いろいろな工夫が必要とされる。教員側の意図としては，まず足元の徳島の文化を見つめようというところから始まっているが，日本全体のことを知りたいという欲求が生まれるのは当然のことだと思われる。これをきっかけとして，自分で探求していく心を養ってほしい。今現在持っている知識としても，個人差があると思われるので，より深く知りたいと思っている人向けに，来年度は「藍染め」に関する専門知識を持っている人を外部講師として招く予定である。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅰ
評価実施日　令和2年8月11日
担当教員名　田中大輝

回答者数　14　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	12	2					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	13	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	13	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	13	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14						5.0



教員のコメント

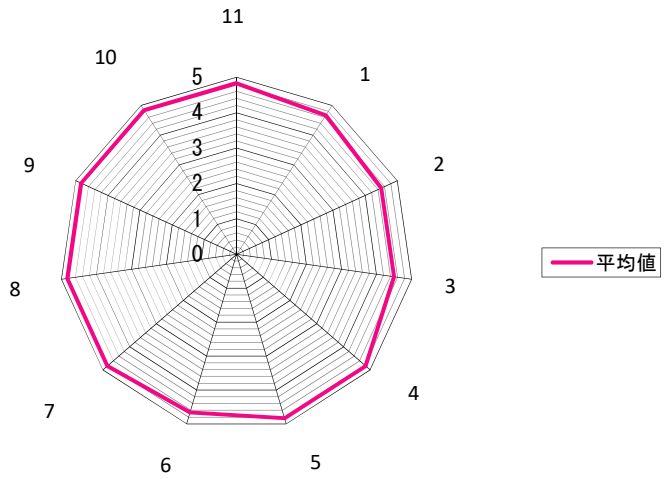
本授業では，本学で学ぶ留学生たちに，「グループで互いに協力し合える能力」，「データの収集やまとめを適切に行える能力」，「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」，「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として，演習発表形式のスタイルを採った。参加者は留学生15名（大学院生4名，研究生の聴講5名，学部生（特別聴講学生）の聴講6名）であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では，「プレゼンテーションスライドやアンケート用紙のうまく作り方を勉強する為一番よかった授業でした。」（原文ママ），「実際にこの後の修士論文にも使えるスキルを身につけられて本当に良かったと思いました。授業も素晴らしかったです。」（原文ママ）など，授業内容を高く評価する声が多く見られた。一方で，「プレゼンテーションスキルだけではなく、日本語の能力を高める為にも内容増やした方がいいと思いました。」（原文ママ）のように，日本語そのものの指導をもっと求める声もあがっていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N4レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。また，本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，初めてオンライン（非同期型）と対面での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅱ
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　廣田知子

回答者数　6　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1				4.5
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1	1				4.5
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	5		1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	5	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	5	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	5	1					4.8



教員のコメント

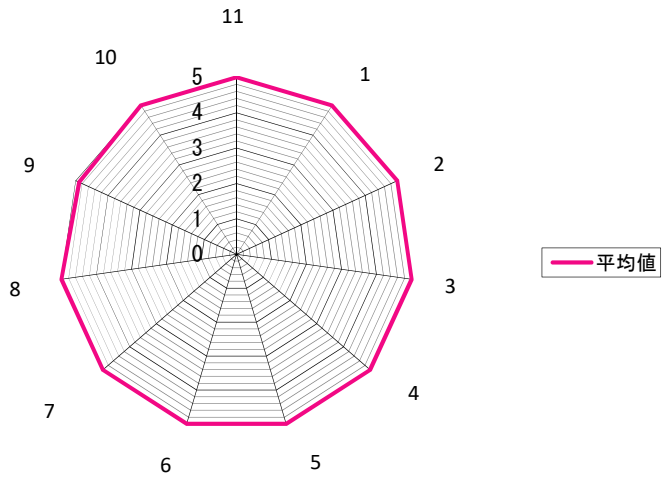
上記の質問項目で，「授業の進む速さは適切であった」というところで3の評価をしている受講生がいるが，果たして，速すぎたのか，遅すぎたのかということがわからない。もっと難しい内容が増えるといいなあという自由記述もあるので，ひょっとしたら，ゆっくり過ぎたのかなとも思うが，N1限定の授業でも，やはり日本語力には個人差がある。どこに焦点を当てて進んでいくのかというのは，毎年熟慮が必要な項目である。幸い人数が少ないので，ゆっくり確認しながら進むように心がけているが，今年度はオンラインでの受講生もいたので，なかなか間の取り方などもむずかしかった。日本人も読む「天声人後」を生のまま取り上げたことで，自信につながったのは良かったと思う。来年度も新聞記事は積極的に授業で取り上げていきたい生教材である。

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅲ
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　田中大輝

回答者数　9　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	9						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	9						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	9						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	9						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	8	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	9						5.0



教員のコメント

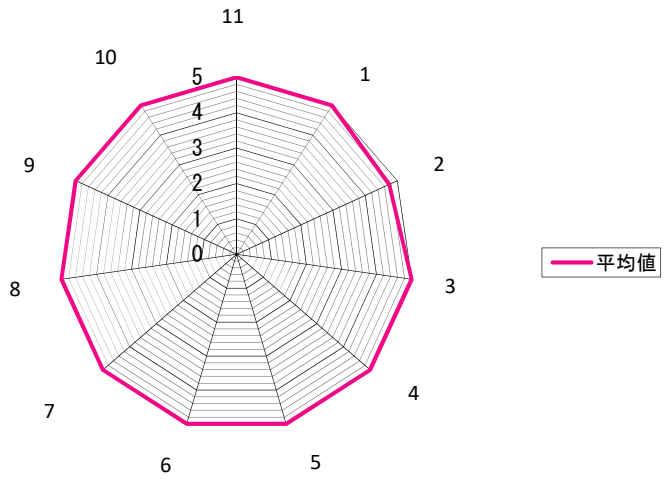
本授業では，大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である，「教員に対するメールで，依頼・謝罪・誘い・お礼などを適切に伝達できる力」および「自分の経験や考えをスピーチとして適切に表現できる力」などを養うことを目的とした。参加者は留学生10名（大学院生1名，研究生8名，学部生（特別聴講学生）1名）であり，授業評価アンケートの自由記述の項目では，「メールの書き方とスピーチの書き方はとても実用的です。」，「とても役に立つと思います。」など，授業の内容を高く評価する声が多く見られた。一方で，「敬語の部分は、みんなの書いたメールに出た敬語だけではない、ほかの敬語ももっと勉強したいです。」のように，実例を増やすことや扱う対象を増やすことを求める声もあがっていた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた（N1レベル～N3レベル）ため，全員のニーズに応えることは難しかったのであるが，できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう，今後も最善を尽くしたい。また，本年度は，新型コロナウイルス拡大の影響で状況が刻一刻と変化し，先を見通すことが難しかったこと，対面での授業とオンライン（同期型）での授業を併用する形となったこと等により，授業の運営そのものが手探りとなってしまった。今後に向けて改善に取り組みたい。（注：引用部は原文ママである。）

結果報告書

授業科目名　日本語Ⅳ
評価実施日　令和3年2月8日
担当教員名　廣田知子

回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

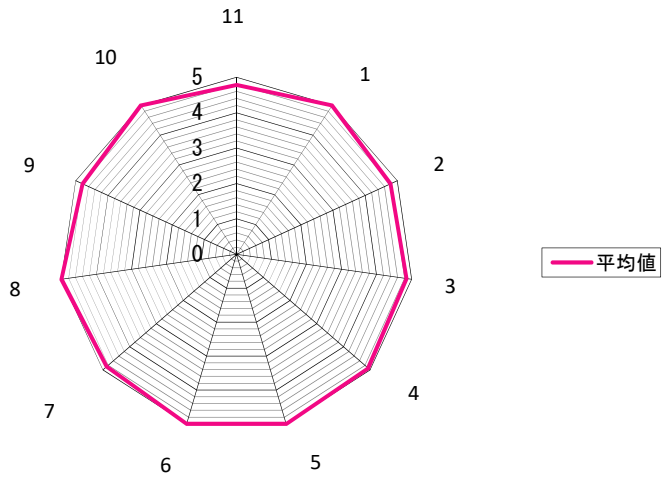
今年度は，オンライン受講生（M1と研究生）が2名含まれた授業となった。聞き取り内容のレベルはかなり高かったと思うが，受講生全員がよく努力しついてきてくれて，充実した内容になったと思う。この授業で学んだ要約のスキルを少しでも修士論文に活かせてもらえればと思う。後半部分は，新聞の「読者の手紙」欄に実際に投稿するという作業を行ったが，2名の受講生の原稿が採用されて，みんなで喜びを分かち合った。教室内だけで日本語の授業が完結してしまうのではなく，このように社会とつながることで，より深く長いモチベーションが保たれるのではないかと考える。来年度も新入生を迎えて，そのように社会と連携できる活動についても考えていきたい。

結果報告書

授業科目名　日本事情・日本文化
評価実施日　令和3年2月4日
担当教員名　廣田知子

回答者数 14 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	14						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	3					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	2					4.9
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	13	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	14						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	14						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	3					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	3					4.8



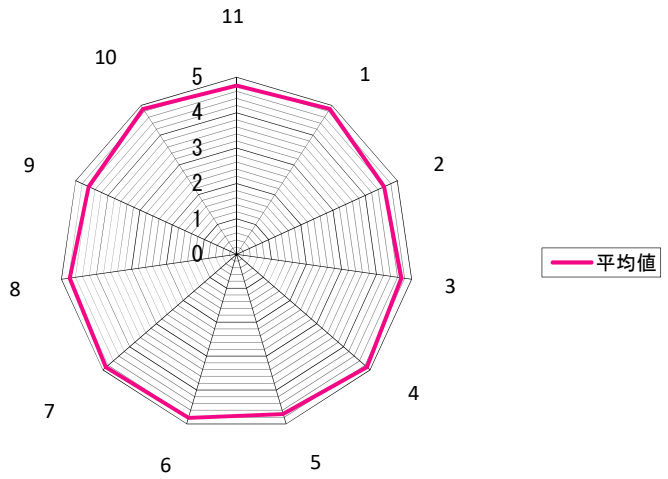
教員のコメント

「日本事情・日本文化」でどういった授業内容を展開するかは，悩ましいところである。教員としては，まず身近なところから，徳島の地理や文化を見つめてほしいという意図があるが，もっと幅広く日本全体のことを学びたいという希望もあることを心得ておきたい。また一言で文化といっても，それこそ幅広く，前期に担当する「日本文化研究」との兼ね合いもある。来年度は，担当者も新任の先生とのペアになるので，内容を一新してもいいのではと考えている。また，より深い学びのためには，外部講師を招いて語ってもらうという回があってもいいのではないかとも考えている。教師が持っている引き出しを提供するだけではなく，専門的な視点を持った方をお呼びしての展開を試みるのもまた刺激的であると考える。

結果報告書

授業科目名　異文化コミュニケーション研究
評価実施日　令和2年8月5日
担当教員名　眞野美穂　　回答者数 17 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	15	2					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	1	3				4.6
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13	3	1				4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	15	2					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	13	3	1				4.7
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	14	3					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	15	2					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	14	2	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	14	2	1				4.8



教員のコメント

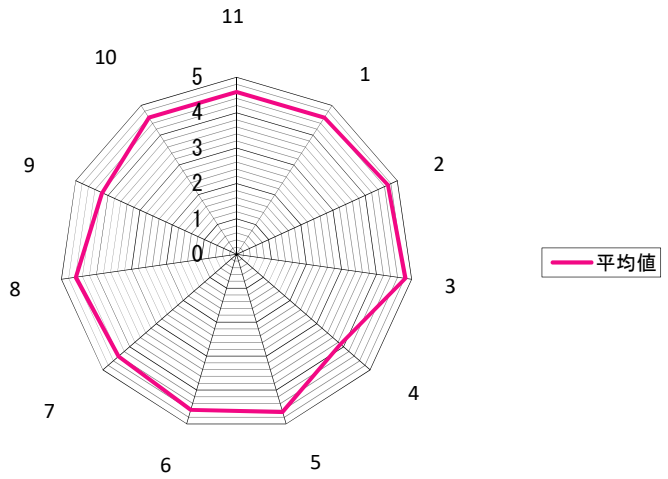
本授業はオンラインでの受講生もいたため、ハイブリッド型でおこなった。また、前半はオンラインでオンデマンド型で授業を行ったが、その進め方に高い評価が得られたことは、その方法の今後の活用も視野に入るものである。特に半数が留学生であったため、何度も繰り返し聞いたり読んだりできるオンデマンド教材はプラスに働いたのではないだろうか。異文化コミュニケーションという内容上、できるだけ多くの文化的背景を持つ受講生がいることが望ましいが、少し国には偏りがあった。授業内外での教材などで、いかにそれ以外の異文化理解についての内容を提示できるかについては今後の課題である。授業の進め方については、問題がなかったようなので、今後も同様に進めて行きたいと思う。

結果報告書

授業科目名　対照言語学研究
評価実施日　令和2年12月24日
担当教員名　山川太

回答者数　17　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	11	5	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	5					4.7
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14	3					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	8	3	3	2	1		3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	12	4	1				4.6
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	13	1	3				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	5	1	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	12	4		1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	11	1	2	3			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4		1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	11	5	1				4.6



教員のコメント

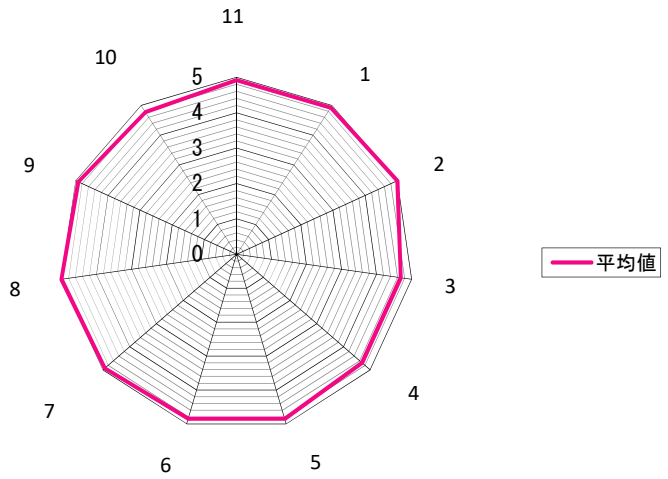
自由記述欄では、「深い内容について考えることができた」「かなり深い内容でとても興味を持って取り組めた」「研究論文に役に立つ」など、講義内容の専門性の高さや言語学の奥深さ(難解さ)を好意的に捉える記述が多く見られると同時に、「留学生には難しい内容だと感じた」「特に留学生は困難感が強かったのではないかと思います」というような記述もあった。後者の意見にどのように対応していくかについては、安易に講義内容のレベルを落とすというのではなく、今後は特に「留学生に対する言語学教育」というものに焦点を当てて講義の内容を組み立てていきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名　言語コミュニケーション演習
評価実施日　令和3年2月9日
担当教員名　眞野美穂

回答者数　13　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	12	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	4					4.7
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	9	4					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	11	2					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	11	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	13						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	12	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	12	1					4.9



教員のコメント

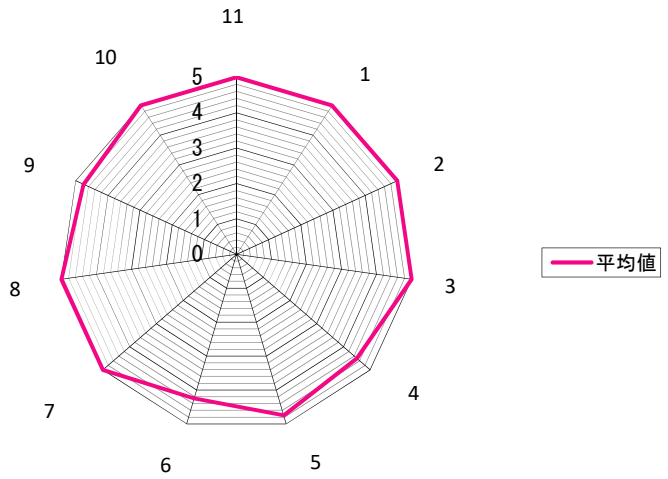
本授業については、オンラインでの参加者3名を含むハイブリッド型の授業形態で行ったため、本当に受講生全員に伝わる授業になったか、不安に思っていた。しかし、授業評価アンケートからは、その点での問題は指摘されておらず、全体的に高い評価が得られたことで、少し安心することができた。ただ教室内のマイクとカメラに試行錯誤することが多かったため、オンライン参加者には負担をかけたと感じている。この問題の解決には、教室の機材の問題も絡むため、時間がかかることが予想される。また、本授業の受講生は半数が留学生であった。自由記述から、選択した教科書とその進め方が少し早かったことも分かったため、次年度以降の課題としたい。

結果報告書

授業科目名　英語文化研究
評価実施日　令和2年8月4日
担当教員名　前田一平

回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3		1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	2	1	1				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

本授業は、私がグローバル教育コースに配置されてから、専門外の異文化理解の授業をにわか作りで実施した授業内容であるにもかかわらず、4名の大学院生が受講してくれたということは奇跡に近いと思っている。しかも、極めて高い授業評価を得たということは、僥倖としか言い様がない。その一方で、グローバル教育コースにおける自分のアイデンティティ認識に苦慮していた立場から言えば、ささやかながらそのアイデンティティの一端を垣間見ることができたような気がする。その意味で、本授業の評価は私にとっては非常に有り難い結果である。

しかしながら、自由記述のなかにオンライン授業が通常の90分で終わらない回があったという指摘は、予想していたとは言え、今後のオンライン授業の実施にあたって大いなる反省材料としなければならない。なぜなら、Moodleによるオンデマンド型授業は、コンテンツ作成ツールであるパワーポイントで音声録音をすると、時間を超過しがちである。むしろ、オンライン授業の場合は、受講生の疲労も考慮して、90分の授業時間に対してコンテンツは60分から70分程度で作成するべきであろうと考える。

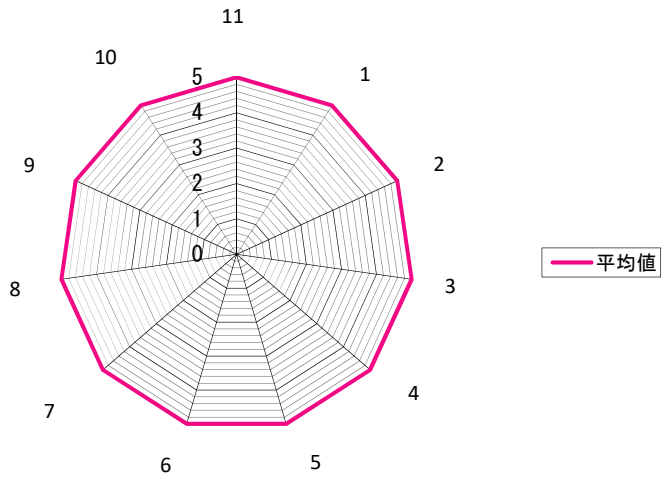
最後に、アクティブラーニングの項目を低評価する受講生が1名いるが、やはりオンデマンド型のオンライン授業においてはアクティブラーニングの実施はかなり制限される。今後は、Moodleによるオンデマンド型授業を実施する場合には、どのようなアクティブラーニングが可能かを全学的に考えてみる必要があるように思える。

結果報告書

授業科目名　ライティング・スキルⅠ
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　鎌田スザーン・リン

回答者数 4 人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4						5.0
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

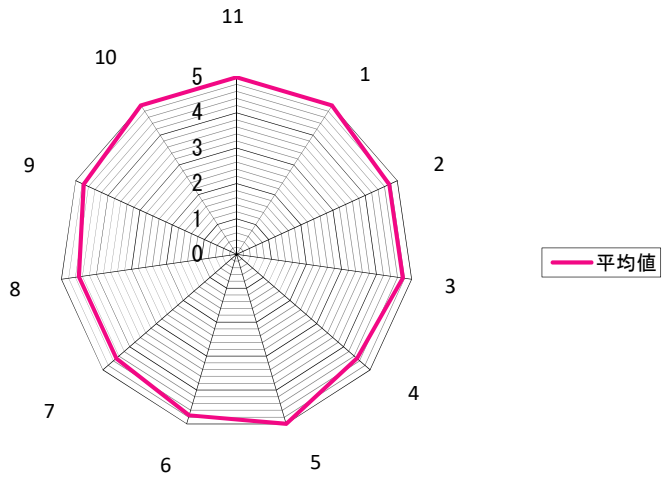
I am pleased to see that the students who responded to the survey were satisfied with the class. I will continue to conduct this class as a student-centered class, with peer review sessions and discussion, as well as offering advice on specific points related to academic writing.

結果報告書

授業科目名　プレゼンテーション・スキルⅠ
評価実施日　令和2年8月3日
担当教員名　ｼﾞｪﾗｰﾄﾞﾏｰｼｪｿ

回答者数　4　人

質問項目		評価選択人数 5	4	3	2	1	N.A	平均値（項目別）
授業の内容について	(1)授業概要は，この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では，ｼﾗﾊﾞｽに示されたｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞが，実施されていた。	3		1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は，適切であった。	4						5.0
	(6)授業の進む速さは，適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(8)教科書や配布された資料は，適切であった。	3		1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は，適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると，よかったと思う。	4						5.0



教員のコメント

Though the results were generally positive, perhaps the biggest challenge is to provide classes that meet the needs of students with differing backgrounds and English skill levels. Providing a variety of material and activities seems to be the best way to achieve this, but providing the right balance is an ongoing challenge and the results of this survey are a guide towards acheiving that.